

県営ふるさと農道整備事業(米浜地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

志賀町

米 浜 遺 跡

2008

石 川 県 教 育 委 員 会
(財)石川県埋蔵文化財センター

よね はま
米 浜 遺 跡

2008

石 川 県 教 育 委 員 会
(財)石川県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は米浜遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は羽咋郡志賀町米浜地内である。
- 3 調査原因は県営ふるさと農道整備事業（米浜地区）であり、同事業を所管する石川県農林水産部農業基盤整備課（現農業基盤課）が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は財団法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成17（2005）年から平成19（2007）年度にかけて実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書刊行である。
- 5 調査に係る費用は石川県農林水産部農業基盤課が負担した。
- 6 現地調査は平成17（2005）年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者は以下のとおりである。
期 間 平成17（2005）年10月31日～平成18（2006）年1月19日
面 積 900㎡
担当課 調査部調査第2課
担当者 西野秀和（課長） 松山和彦（調査専門員）
- 7 出土品整理は平成18（2006）年度に実施し、企画部整理課が担当した。
- 8 報告書の刊行は平成19（2007）年度に実施し、調査部調査第2課立原秀明（調査専門員）が担当した。
- 9 発掘調査には下記の機関、個人の協力を得た。
石川県農林水産部農業基盤課、中能登農林総合事務所（旧羽咋農林総合事務所）、大藤雅男（敬称略）
- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。
（1）方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標第Ⅶ系に準拠した。
（2）水平基準は海拔高であり、T.P（東京湾平均海面標高）による。
（3）出土遺物番号は挿図と写真で対応する。

目 次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘作業の経過	1
第3節 整理作業の経過	2
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	7
第1節 調査の概要	7
第2節 遺構	7
第3節 遺物	7
第4章 ま と め	27

挿図目次

第1図 遺跡位置図	3	第2図 周辺の遺跡	5	第3図 遺跡調査地点	6
第4図 遺構実測図	7	第5図 調査区位置図	8	第6図 調査区平面図	9
第7図 土器・土製品1	11	第8図 土器・土製品2	12	第9図 土器・土製品3	13
第10図 土器・土製品4	14	第11図 土器・土製品5	15	第12図 土器・土製品6	16
第13図 土器・土製品7	17	第14図 土器・土製品8	18	第15図 土器・土製品9	19
第16図 土器・土製品10	20	第17図 土器・土製品11	21	第18図 石製品	26

表 目 次

第1表 周辺の遺跡一覧1	4	第2表 周辺の遺跡一覧2	5
第3表 土器・土製品観察表1	22	第4表 土器・土製品観察表2	23
第5表 土器・土製品観察表3	24	第6表 土器・土製品観察表4	25
第7表 石製品観察表	26		

図版目次

図版1 調査区遠景、東区完掘状況	図版2 西区完掘状況、西区土器層完掘状況
図版3 遺構検出作業、掘削作業、遺構完掘状況など	図版4 出土遺物1
図版5 出土遺物2	図版6 出土遺物3
図版7 出土遺物4	図版8 出土遺物5

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

石川県では、産業基盤整備の一環である農業の振興について、生産性の向上・合理化を図るため県営ほ場整備事業の推進や、農産物の流通合理化を図るためふるさと農道及び広域営農団地農道などの整備を促進している。

米浜遺跡の発掘調査は、県営ふるさと農道整備事業（米浜地区）の工事を原因としている。この農道は、大きくは羽咋郡市門前基幹農道 米浜・富来南部・能登外浦地区の一部である。宝達志水町（旧押水町）森本から輪島市門前町道下を結ぶ61 km（農道区間52km、土木区間9 km）の基幹農道であり、羽咋郡市と輪島市門前地域の農地と農業施設、市場（金沢、関西方面）を結び、農産物流通の合理化を図るとともに中山間地域の道路状況を改善し、生活利便性の向上に資することを目的として計画された。

これに伴い平成15年9月に、石川県羽咋農林総合事務所（現中能登農林総合事務所）から石川県教育委員会文化財課（以下県文化財課）に門前側の工事区域について分布調査が依頼された。県文化財課は、同年10月に踏査及び分布調査を実施し、埋蔵文化財は確認されなかったと回答している。

平成16年3月、再び県羽咋農林総合事務所から県文化財課に発掘調査地を含む羽咋側の工事区域について分布調査が依頼された。県文化財課は、同月に踏査及び分布調査を実施し、路線内の2ヶ所で埋蔵文化財（米浜遺跡）が確認されたと回答している。

分布調査の結果を基に両者で協議・調整がなされ、遺跡に影響が及ぶ部分について発掘調査を実施することが決定された。

第2節 発掘作業の経過

財団法人石川県埋蔵文化財センターは、石川県教育委員会の委託を受けて平成17（2005）年度に発掘調査を行なった。現地での調査期間は、平成17年10月31日から平成18年1月19日であった。

調査日誌（抜粋）

- 10月31日～11月2日 重機による表土除去作業
- 11月10日 調査事務所など立ち上げ。発掘機材搬入
- 11月14日 西区包含層掘削作業
- 11月22日 西区黒色土層（製塩土器層）掘削作業
- 12月7日 東区遺構検出作業
- 12月9日 東区遺構掘削作業
- 12月12日 この頃から降雪のため作業が中断
- 12月15日 東区遺構検出・遺構掘削作業
- 12月20日 調査区の除雪作業
- 1月5日 調査区の除雪作業
- 1月11日 調査区の排水・除雪作業
- 1月12日 空中写真測量実施

- 1月13日 東区完掘状況写真撮影。西区遺構掘削作業
- 1月16日 西区完掘状況写真撮影。実測作業
- 1月19日 発掘機材撤収

第3節 整理作業の経過

出土品整理作業は、平成18年度に県埋蔵文化財センター企画部整理課が行なった。内容は、遺物の洗浄、記名・分類・接合、土器の復元、土器の実測・実測図トレース、石製遺物の実測・実測図トレース、遺構実測図のトレースである。また、出土遺物の写真撮影を行なった。

報告書の作成・刊行は、平成19年度に県埋蔵文化財センター調査部調査第2課が担当し、原稿執筆、挿図、写真図版などの作成・編集作業を行なった。



表土除去作業（東区）



調査区の積雪状況



空中写真測量実施風景



出土品整理作業

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境 (第1、3図)

米浜遺跡は、石川県羽咋郡志賀町米浜地内に所在する。志賀町は、能登半島の中央部、西海岸に位置している。平成17年に富来町と合併して現在の志賀町となり、町域246.55km²、人口24,435人(平成20年3月現在)、世帯数8,055戸となっている。米浜地区は、町の南部にあり、地勢のあらまは、旧福野潟低地を貫流する於古川を境として潟北東部の沖積低地と標高50mほどの低丘陵からなる。於古川は、奥山峠と後山(鹿島郡中能登町)に源を発し、大坂で合流して旧福野潟の中央部を北西に流れる。その先は、神代で米町川と合流して神代川となって日本海に注いでいる。

遺跡は、集落から北東の丘陵裾にあり、南西に開く谷開口部に位置している。谷開口部の先に広がる旧福野潟低地は、現在では主に水田地帯となっている。於古川の土砂堆積と江戸初期以来の潟干拓事業によって干拓されたが、湧水が著しく氾濫、排水用の溝渠や水溜りが多くみられる沼田であった。そのため、クリーク農法と呼ばれる営農形態が長く続けられていた。しかし、これには、多大な時間と労力を必要とするため、昭和52年度から県営干拓地等農地整備事業が開始された。この事業に関連して、昭和54年に石川県立埋蔵文化財センターが本遺跡の発掘調査を実施している。遺物は、平安時代前期とみられる製塩土器が出土しており、少なくともこの時期までは、遺跡の近辺に海水が流入する入江のような状況であったと考えられている。遺跡から海岸までは2kmほど離れており、海岸部には、幾度かの形成からなる平均30～40mの砂丘が神代川の南部で帯状に広がる。潟としての形成は、砂丘の発達によって湾口が閉じられたことによるものと考えられ、時的には平安時代前期以降とみられる。



第1図 遺跡位置図

第2節 歴史的環境 (第2図、第1表)

米浜遺跡周辺の歴史的環境として、周辺の遺跡を時代別に概観する。

縄文時代 福野高野坂遺跡、長沢堂ヶ谷内遺跡、長沢おおくは遺跡、福井まんだら寺A遺跡、大坂遺跡、穴口貝塚、米浜遺跡、川尻なべんたか遺跡、矢駄おはい山遺跡、安津見西山遺跡などがある。穴口貝塚は、本遺跡の南東1.4kmにある。第2図の範囲外になるが、本遺跡の北西2kmに堀松貝塚もみられ、福野潟周辺に貝塚が形成されている。この時期は、縄文海進により福野潟の南西部が入江になっていたと考えられている。

弥生時代 福野高野坂遺跡、福野前川遺跡、宿女南山遺跡、穴口遺跡、穴口貝塚、米浜遺跡、川尻な

べんたか遺跡などがある。平成13年に行われた穴口遺跡・穴口貝塚の発掘調査では、中期後半から後期の遺構・遺物が多く検出された。堅穴系建物を主体とする集落が営まれ、集落域は溝で区画されていたと考えられている。

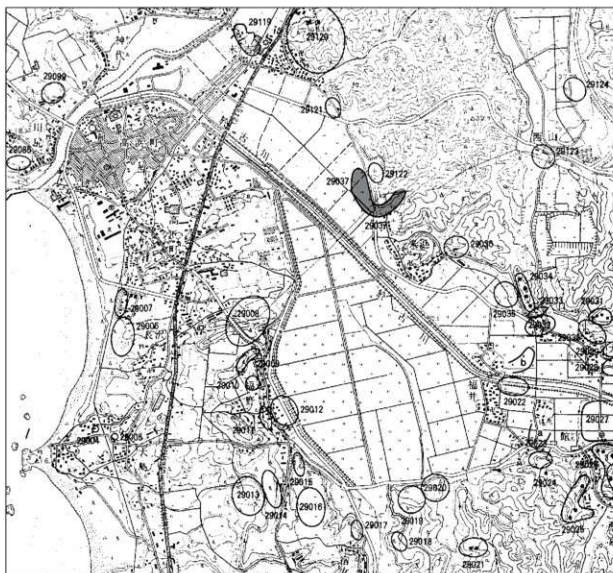
古墳時代 福野横穴群、福野高野坂遺跡、福野前川遺跡、福井二塚古墳群、おお干場古墳、下甘田極楽寺山古墳群、二所宮宮山1号墳～6号墳、大坂坊の上遺跡、大坂おバタケ古墳群、穴口古墳群、米浜はげの下遺跡などがある。旧福野湯奥部の大坂、穴口、二所宮を中心に多くの古墳が築かれている。なかでも二所宮古墳群の3号墳(車塚古墳)は、埴輪の出土や葺石を備える径30mほどの円墳であり、当時の首長クラスの墓と考えられている。

古代 大島氏館跡、福野前川遺跡、大島神主山遺跡、米浜藤の森遺跡、米浜遺跡、末吉館畑遺跡、米浜クルマダン遺跡などがある。大坂船の町遺跡では、2艘の独木舟と櫂・うき・梯子が発見され、古墳時代後期から奈良時代の遺物と想定されている。昭和54年に行われた本遺跡の発掘調査では、平安時代前期とみられる製塩土器が多量に出土している。

中世 長沢中世遺跡、長沢ハマナス遺跡、大念寺遺跡、福野前川遺跡、福野経塚中世墳墓、福井まんだら寺B遺跡、館郷堂遺跡、穴口遺跡、末吉館畑遺跡、末吉城跡などがある。平成12年に行われた館郷堂遺跡の発掘調査では、土坑から14世紀後半～15世紀の高島硯が出土している。同時期の遺構として幅3～4mと推定される堀ないし河が検出され、南北朝時代に活躍した土田氏の館跡に関連する遺跡と考えられている。平成13年の穴口遺跡・穴口貝塚の調査では、鎌倉時代の井戸跡を検出している。また、旧福野湯周辺には、福井の大目板碑(正応4(1291)年)をはじめとして、板碑が多く分布する地域として注目される。

第1表 周辺の遺跡一覧1

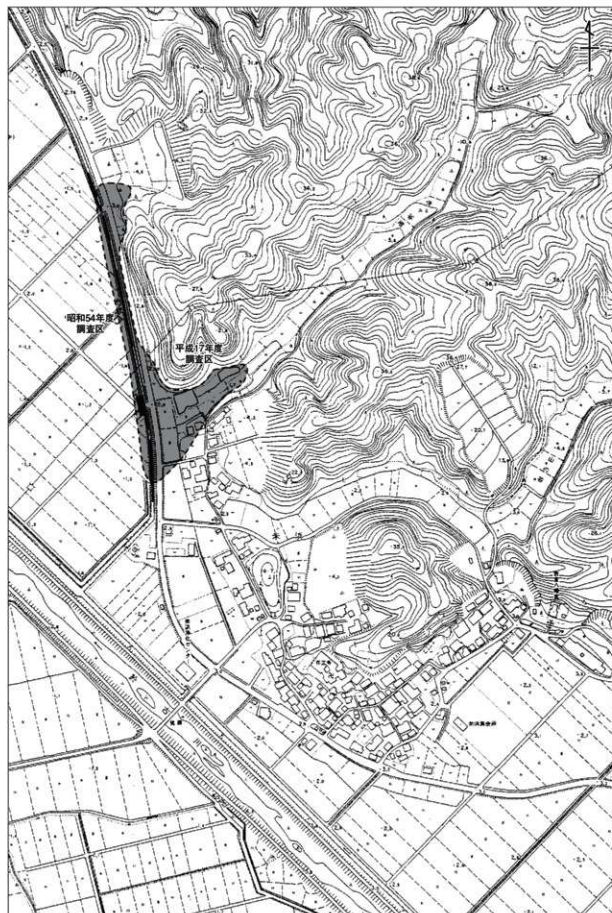
遺跡番号	名称	所在地	時代	出土品	備考
20004	大島氏館跡	志賀町大島	平安		
20005	大島たから遺跡	志賀町大島	不詳		町道827号大島福野連絡橋工事に発見
20006	長沢中世遺跡	志賀町長沢	中世	須恵器、珠洲焼、青磁、鉄釘	
20007	長沢ハマナス遺跡	志賀町長沢	中世	須恵器、磁器、銅銭	1983年、町教委発掘調査
20008	大念寺跡	志賀町福野	中世		
20009	福野横穴群	志賀町福野	古墳	須恵器	
20010	福野上野遺跡	志賀町福野	不詳		
20011	福野高野坂遺跡	志賀町福野	縄文、弥生、古墳	縄文土器、磨製石斧、石鏃、弥生土器、土師器	
20012	福野前川遺跡	志賀町福野	弥生、古墳、奈良、平安、中世	弥生土器、須恵器、珠洲焼	
20013	大島神主山遺跡	志賀町大島	古墳、奈良、平安	須恵器、土師器	
20014	長沢宮ヶ部内遺跡	志賀町長沢	中世	土器(中期)、磨製石斧、打製石斧	町指定遺跡
20015	福野経塚中世墳墓	志賀町福野	中世	珠洲焼、古銭	
20016	長沢おくほ遺跡	志賀町長沢	縄文	土器(中期)、磨製石斧、石鏃	
20017	館女遺跡	志賀町館女	不詳	土師器	
20018	館女南山遺跡	志賀町館女南山	弥生	土器	
20019	福井まんだら寺B遺跡	志賀町福井	中世	瓦輪葺	
20020	福井まんだら寺A遺跡	志賀町福井	縄文	土器(中期)、石鏃	
20021	福井二塚古墳群	志賀町福井二塚	古墳		円墳2基
20022	館郷堂遺跡	志賀町館郷	不詳		
※	館郷堂遺跡	志賀町館郷	中世	石製硯、土師器、珠洲焼、陶磁器、青磁	2000年(財)石川県臨済文化財センター発掘調査
20023	館郷跡	志賀町館郷	不詳	土師器	
20024	おお干場古墳	志賀町館郷	古墳	古墳	円墳、戦時中の開田で墳丘削平
20025	下甘田極楽寺山古墳群	志賀町二所宮	古墳	土師器、須恵器、鉄斧、鉄鏃、鉄釘、石斧	円墳3基以上、1・2号墳は1989年志賀町教委発掘調査
20026	二所宮宮山1号墳	志賀町二所宮	古墳		円墳(径23m)
	二所宮宮山2号墳	志賀町二所宮	古墳		円墳(径19m)
	二所宮宮山3号墳(車塚)	志賀町二所宮	古墳		円墳(径30m、高5.5m)、周溝あり
	二所宮宮山4号墳	志賀町二所宮	古墳		墳丘部平
	二所宮宮山2号墳(鳥居手塚)	志賀町二所宮	古墳		円墳(径10m、高2m)
20027	二所宮宮山6号墳(太刀塚)	志賀町二所宮	古墳		円墳(径10m、高2m)
20027	大坂船の町遺跡	志賀町大坂船の町	不詳	丸木舟、舟用具、木製品	町指定史跡
20028	大坂坊の下遺跡	志賀町大坂坊の下	不詳	土器	
20029	大坂坊の上遺跡	志賀町大坂坊の上	古墳	須恵器、土師器	
20030	大坂遺跡	志賀町大坂	縄文(中期)	土器、石鏃、石玉玉、鳥骨、シジミ貝、磨製石斧	
20031	大坂おバタケ古墳群	志賀町大坂	古墳		円墳4基以上(径10～14m)



第2図 周辺の遺跡 (S = 1/25,000)

第2表 周辺の遺跡一覧2

29009	穴口遺跡	志賀町穴口	弥生(中期～後期)、中世	土器、土師器、須恵器、陶磁器、木製品	2001年(財)石川島種織文化財センター発掘調査
29002	穴口貝塚	志賀町穴口	縄文(中期)	縄文、シジミ貝、石鏃	2003年(財)石川島種織文化財センター発掘調査
29003	穴口区の下遺跡	志賀町穴口	不詳	鏃	
29004	穴口古墳群	志賀町穴口	古墳	1号墳より須恵器	円墳4基(径10～14m)
29005	米浜産の森遺跡	志賀町米浜	平安	土師器、須恵器	1981年 石川島立種織文化財センター分布調査
29006	米浜げの下遺跡	志賀町米浜	古墳	土師器、石鏃	
29007	米浜遺跡	志賀町米浜	弥生、平安	土器、石鏃、軽石	1978年教委分布調査、1979.81年石川島立種織文化財センター分布調査、発掘調査 2005年(財)石川島種織文化財センター発掘調査
29008	川尻千代園遺跡	志賀町川尻	不詳		
29009	川尻なべんか遺跡	志賀町川尻	縄文、弥生	縄文土器、石鏃、四石、磨製石斧、石鏃、須佐耳飾、弥生土器	1971年工場建設により損壊
29019	末吉館屋遺跡	志賀町末吉	奈良、平安、中世	土師器、須恵器、中世陶磁器、弥生土器、珠首飾	1985年 志賀町教委発掘調査 2001年(財)石川島種織文化財センター発掘調査
29020	末吉城跡	志賀町末吉	中世		平田面、空堀等遺存
29021	末吉瓦品遺跡	志賀町末吉	不詳	土器	
29022	米浜クルマダシ遺跡	志賀町米浜	奈良、平安	銅瓦土器	
29023	矢野おはい山遺跡	志賀町矢野	縄文	石斧	
29024	安津見西山遺跡	志賀町安津見	縄文	石鏃	



第3図 遺跡調査地点 (S = 1/5,000)

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要 (第5、6図)

調査地は、2ヶ所に分かれており、丘陵側の調査区を東区、海側の調査区を西区とした。検出面での標高は、東区で1.4～1.8m、西区で1.2～2.0mを測り、ともに北側から南側に傾斜する地形である。

遺構は、両調査区ともに薄く、東区では溝状の遺構が数条と、不整形な落ち込みを1基確認した。西区では、また、標高の最高所である中央北側付近で、多量の製塩土器が出土した土器層と、その西側で土坑1基を確認した。また、被熱痕跡のある石が出土しており、土器製塩の炉に使用されたものとみられるが、炉跡は確認できなかった。

第2節 遺 構 (第4図、図版3)

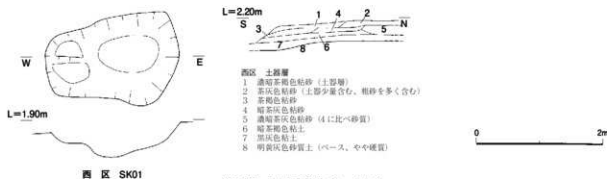
東区

SD01 中央部を西端から東方向へ17mほど伸び、南方向に曲がる溝である。幅0.6～1.35m、深さ0.03～0.12mを測る。調査担当者の所見によれば、近代の耕作にともなう溝とのことである。

SX01 中央北側に位置する浅く不整形な落ち込みである。SD01に南端が切られている。東西で長さ3.8m、南北の最大長4.35m、深さ0.1mを測る。

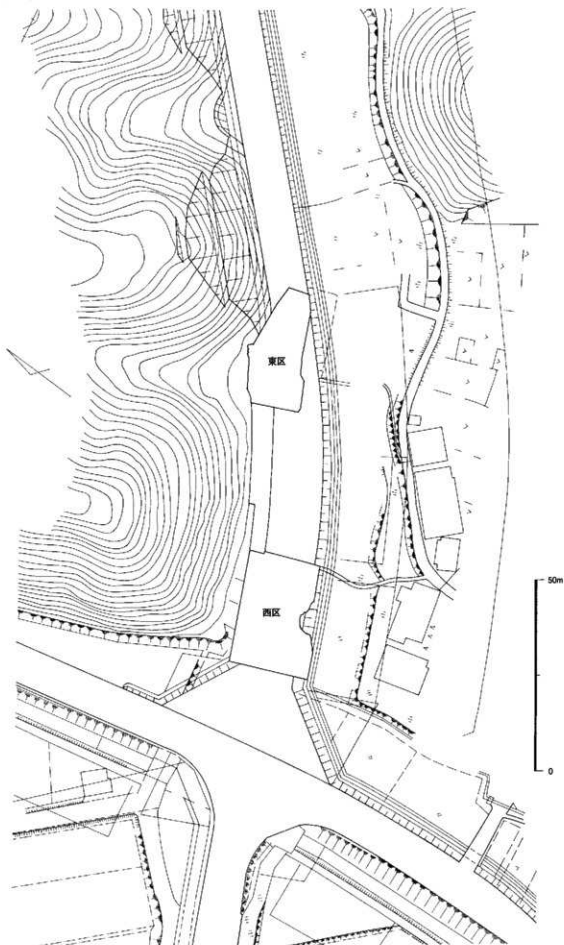
西区

SK01 南西端で検出した土坑である。平面は楕円形を呈し、長さ2.1m、幅1.5m、深さ0.46mを測る。
土器層 中央北側の高所から低地への境で、製塩土器が長さ約8m、幅約2mの範囲でまとまって出土した。層序は、耕土直下の黒色土層とその下位の土器層(層1～層7)に大きく分かれ、遺物の取り上げもこれになった。土器層では、層1～層6まで製塩土器を中心とする遺物の出土がみられ、層7からはほとんど遺物が出土しなかった。土器層の性格としては、製塩作業で使用した土器を高所から低地にまとめて捨てたものが堆積した廃棄層と考えられる。

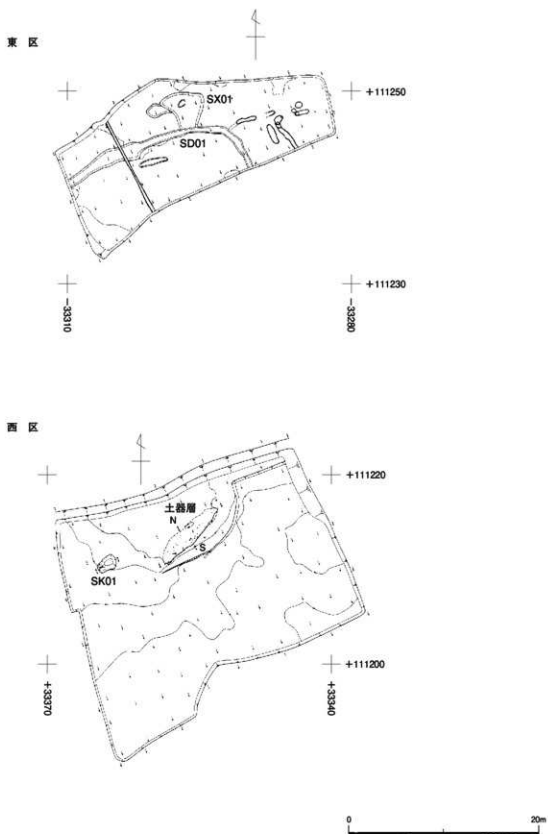


第3節 遺 物 (第7～18図、図版4～8)

出土遺物は、整理箱(65cm×40cm×14.5cm)に換算して27箱を数える。製塩土器が大半を占め、平底形製塩土器(以下平底形)と尖底形製塩土器(以下尖底形)が確認される。その他には、須恵器、



第5図 調査区位置図 (S = 1/1,000)



第6図 調査区平面図 (S = 1/400)

土師器、弥生土器、支脚、土製品、石器などの出土が少量みられる。

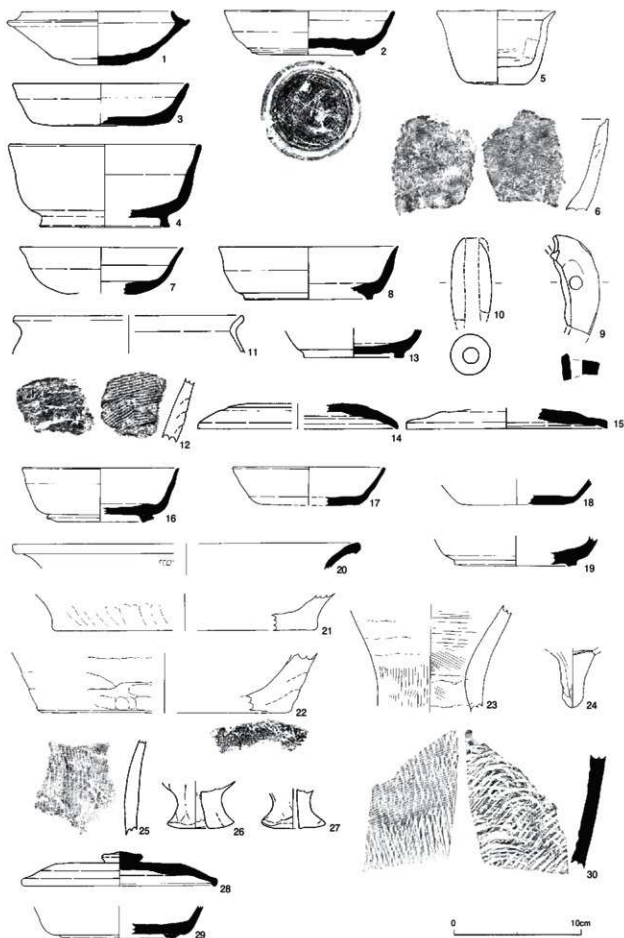
東区から出土した遺物は、1～21を図示した。西区から出土した遺物は、22～270であり、SK01は22～27、土器層は28～140、黒色土層または黒色土層下部は141～228を図示した。

須恵器 1は、杯身である。6世紀末～7世紀前半頃に比定される。2の有台杯は、底面に×のヘラ記号がある。4の杯は、口縁から2.5cm下の側面に補修孔とみられる穴が開いている。成形時に開いた穴を塞いだ粘土が、はがれ落ちたようである。高松産とみられ、時期は8世紀後半に比定される。9は、双耳瓶の把手部である。14、15は、杯蓋で8世紀代に比定されようか。20は、甕の口縁部である。瓦質の須恵器である。28の杯蓋は、焼成不良で内面は土師器のような色を呈する。

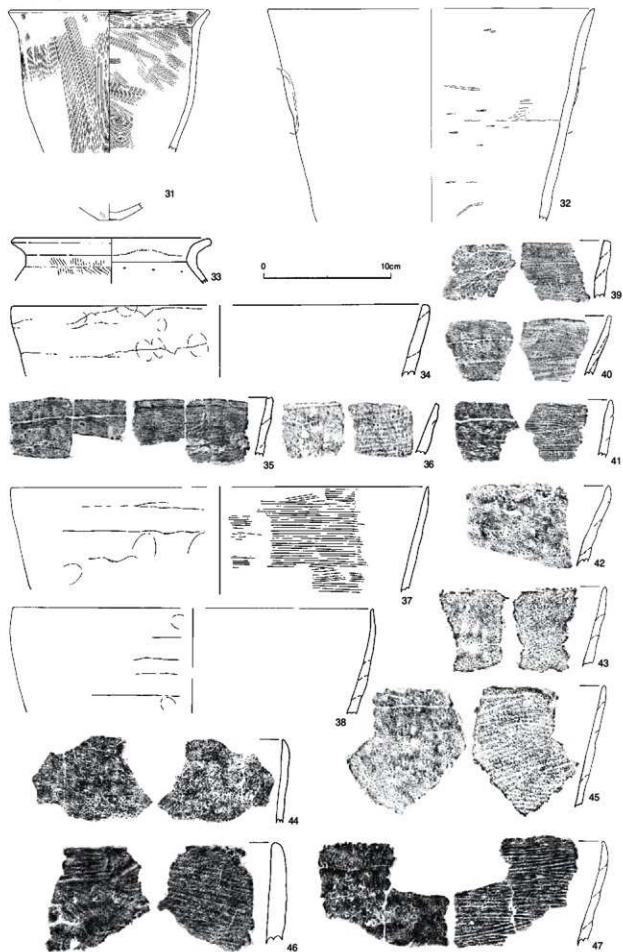
土師器 11、33は、甕の口縁部である。32のこしきは、側面に把手が付いていた痕跡がみられる。131は、こしきとみられるが、製塩作業に関係する可能性がある（戸調2002）。しっかりとした厚い器壁で、外底面には木目状の圧痕を残す。223は、口縁部の破片である。外面の屈曲部にハケ調整を施す。胎土は、製塩土器と大きな違いがみられない。製塩土器とすれば、口縁が水平に開く形はあまりみられないように思われる。

製塩土器 5は、製塩作業に関係する土器であろうか。手づくね成形で口縁が外側に開くコップ形をしている。22は、底面に被熱の痕跡がみられる。23、24は、尖底形のくびれ部と棒状脚部である。34～36、39、40は、平底形の口縁部とみられる破片で、端部が面取りされている。39の口縁部は、端部の面取り後に内面のハケを施している。46は、平底形とみられる口縁部の破片であるが、かなり厚い器壁である。調整は、粗いハケ目を残す。56は、口縁部の粘土紐が外側にも巡るようで、突帯風になっている。66、71は、平底形の底部である。外面に木目状の圧痕がみられる。72、77、81、82、85、99、103、170、174、175、177、180、182、183、246、253、256、257、259は、外底面から粘土紐の一段目あたりまで、砂の付着が顕著である。76、92、93の平底形の底部は、縁部が一段凹んでいる。小片のため全周するかは不明である。94の底部は、厚みがある。外面は、ヘラケズリ調整され、比較的丁寧なつくりである。内面は、一部に器面の剥離がみられる。109は、底部の外縁部に丸みがある。小片なので土器の大きさは不明。被熱の痕跡が顕著である。110、111は尖底形の口縁部とみられる。口縁の端部が内屈する。112～117、199～205は尖底形のくびれ部付近の破片である。113、122、199、200、201は、いずれも海綿骨針を極わずか、もしくは含まない。色調も黄色が強い傾向にある。203は、外面の磨耗が激しいが、ハケの痕跡がみられる。内面は頸部上のハケを残すが、胴部にいたる部分はナデで消している。118～129、206～222、229、260～263は、尖底形の棒状脚部の破片である。内底部の処理は、凹んだものと凹みを埋めて面をなすものがみられる。208、209は、棒状脚部の先端が平らになっている。143、145～150は、平底形の口縁部とみられる破片で、端部が面取りされている。151～157は、平底形の口縁部とみられる破片で、端部を丸く仕上げている。158～167は、平底形の体部とみられる。168～183、230、247～250、253～259は、平底形の底部破片である。184～198は、尖底形の口縁部とみられる。194は比較的精製された粘土を使用しており、丁寧なつくりである。198は、小型の平底形だろうか。224、251は、調整痕、胎土、残り具合において製塩土器との違いがないことから小型の製塩土器とみられる。251は、底径9cmほどで、上部は丸みのある胴体が付くか。内面に細い板状具での調整がみられる。252は、底径11cmほどに還元され、底部外面には、多量の砂が付着している。小型の製塩土器とみられる。

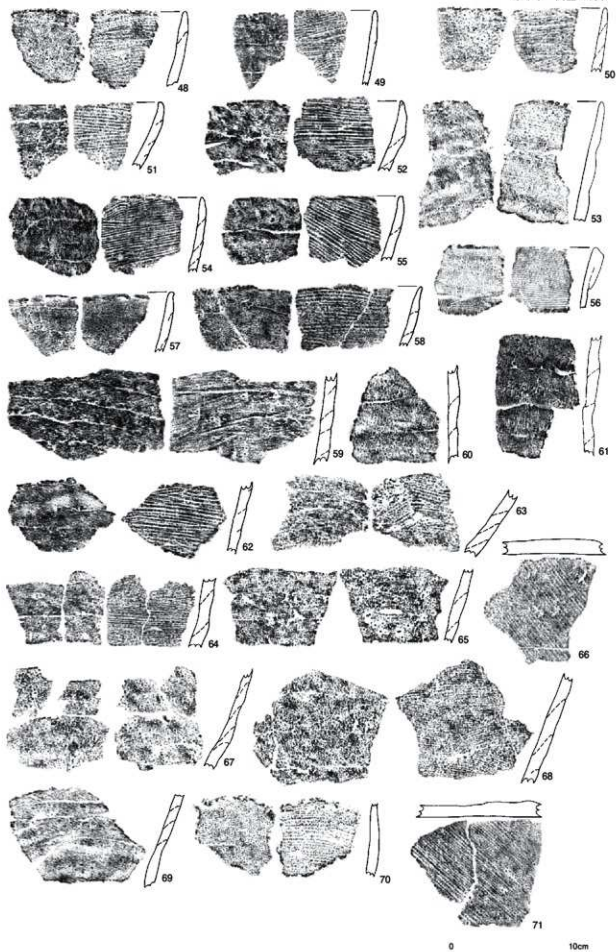
支脚 26、27は糸巻型支脚である。上下面の中央に、棒状具で縦方向の穴を貫通させている。132は、円筒型支脚である。上端は平らにつくられ、内面下半は粘土紐を指で軽く押さえるのみの成形である。133、134、138、266は、棒状型支脚で中実タイプの支脚である。133は、高さ16.6cmを測る。棒状



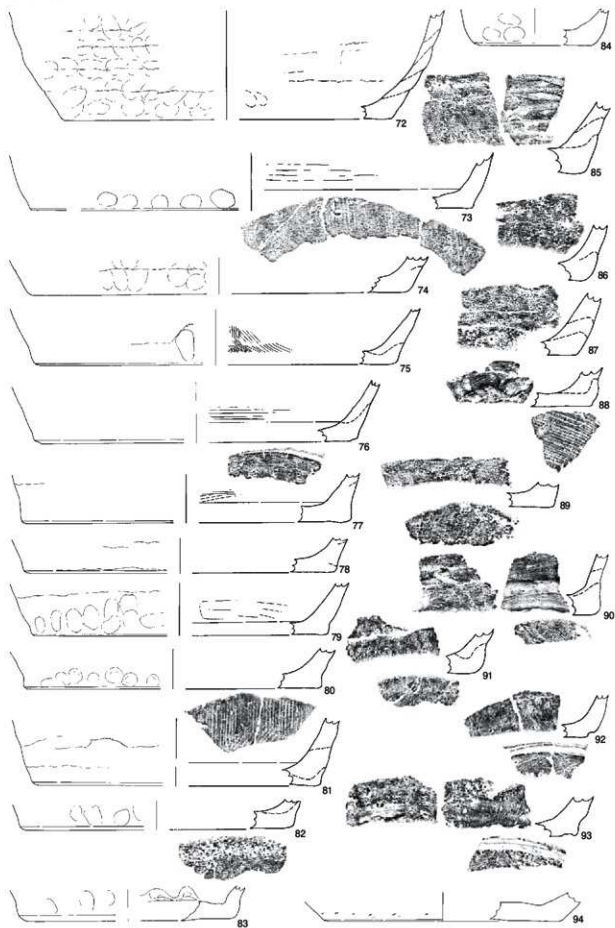
第7図 土器・土製品 1 (S = 1/3)



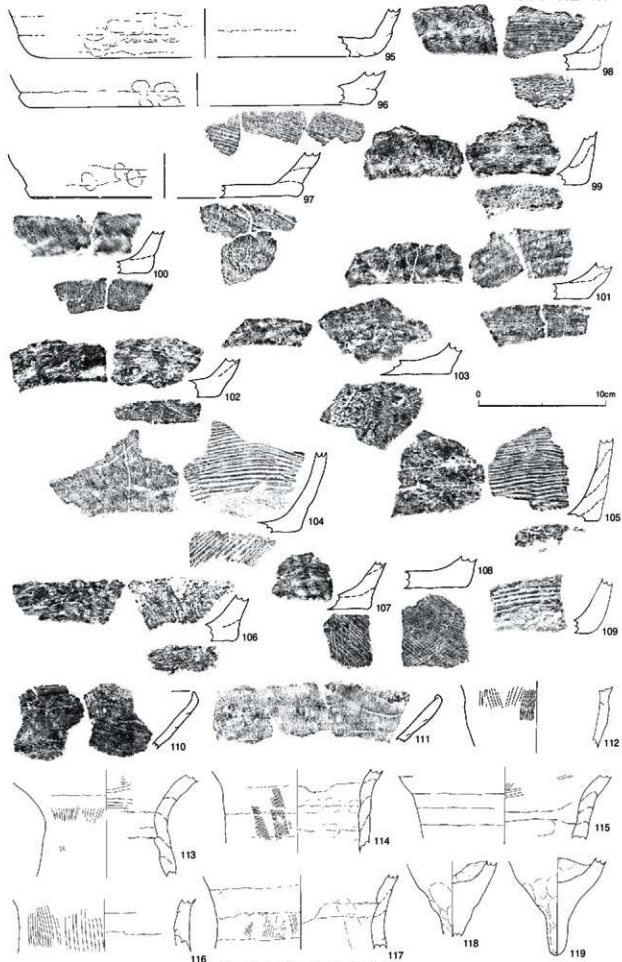
第8圖 土器・土製品2 (S=1/3)



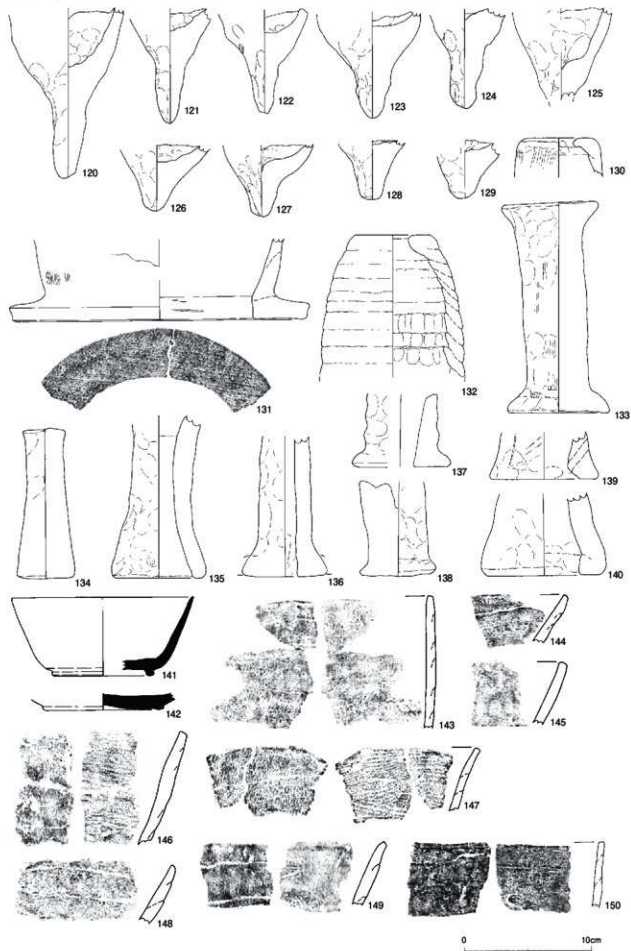
第9図 土器・土製品3 (S=1/3)



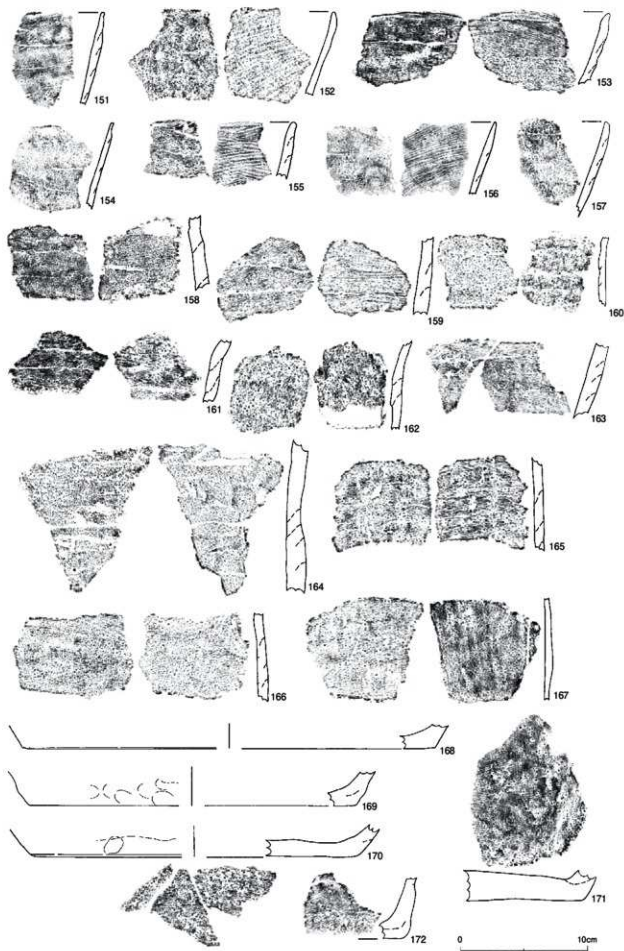
第10図 土器・土製品4 (S = 1/3)



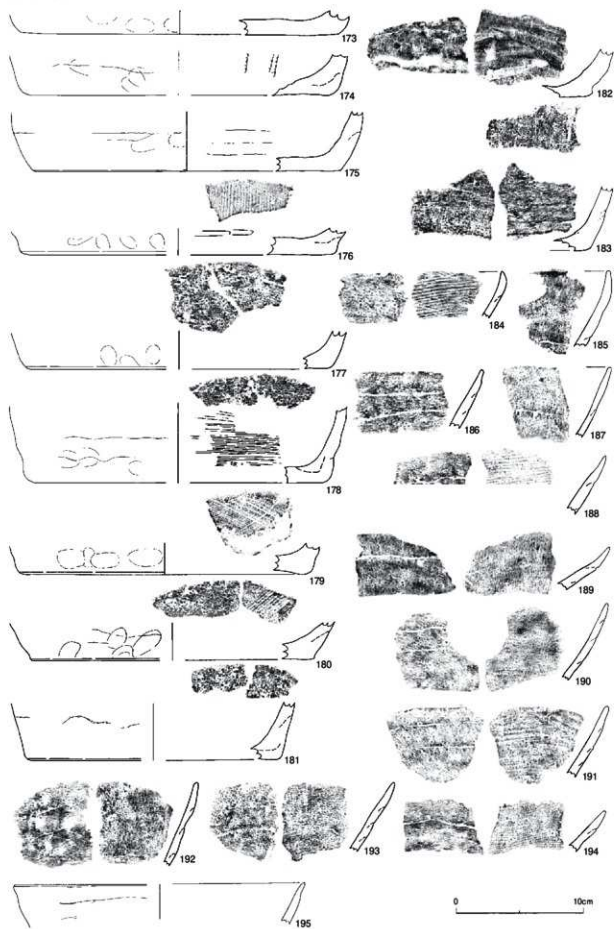
第11図 土器・土製品5 (S=1/3)



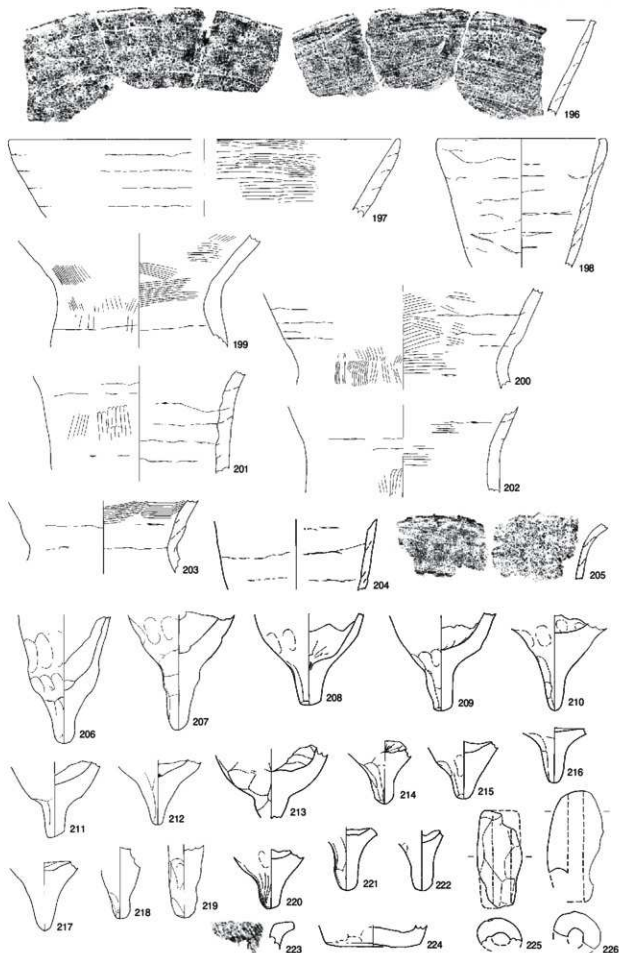
第12図 土器・土製品6 (S = 1/3)



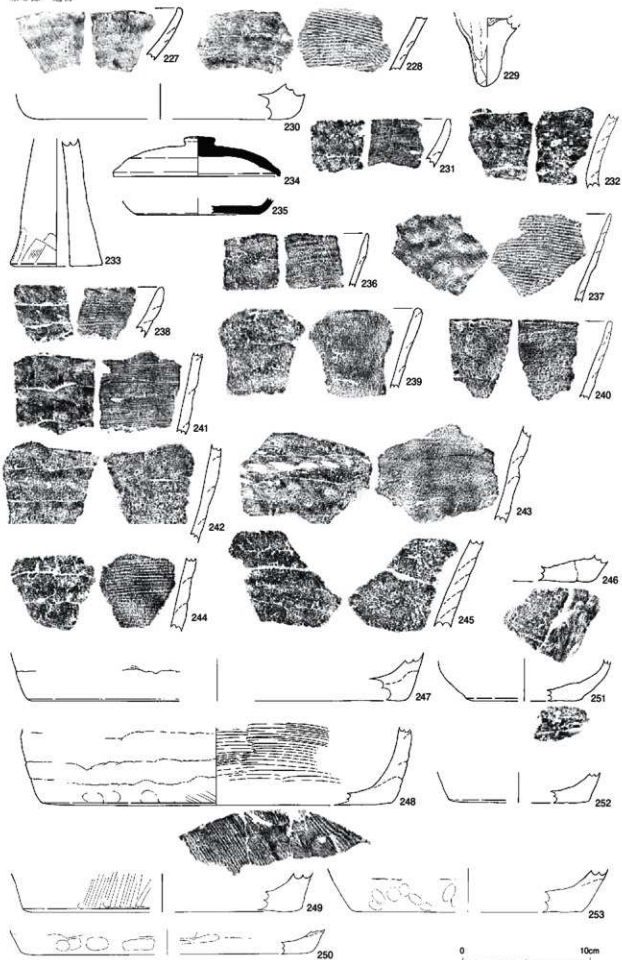
第13図 土器・土製品7 (S = 1/3)



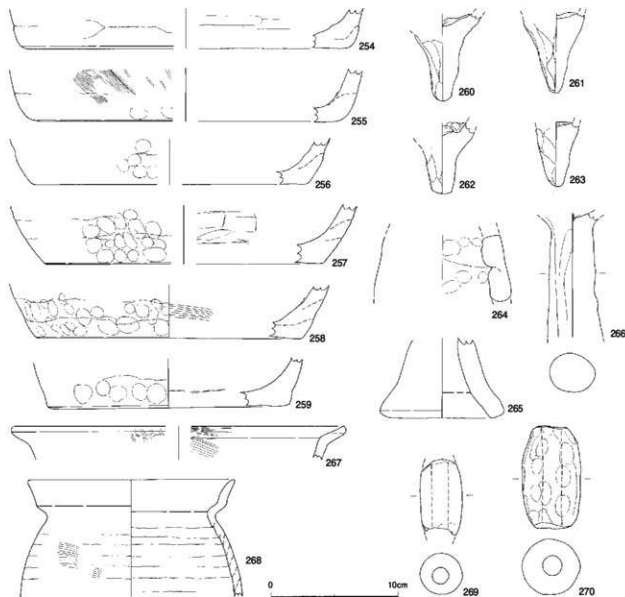
第14図 土器・土製品8 (S = 1/3)



第15図 土器・土製品9 (S = 1/3)



第16圖 土器・土製品 10 (S = 1/3)



第17図 土器・土製品 11 (S=1/3)

部分に縦方向の黒斑があり、黒斑の上部が欠損している。両端面は平らで、若干傾いている。134は、高さ11.7cmである。138は、棒状部分の一部に黒斑がみられる。135、136、137、139、140、233、265は、棒状型支脚の中空タイプである。135、139、140、265は裾が開く形である。140は、復元すると133ほどの大きさだろうか。136は、140に比べて小さいサイズである。139は、他よりも丁寧なつくりである。233は、上部が被熱により還元した色調を呈し、器面も他より荒れている。

土製品 10、225、226、269、270は、土鍾である。

弥生土器 268は弥生時代後期の甕である。内外面ともに粘土紐痕を残す。

石製品 石1～7は、全体または部分的に被熱しており、土器製塩炉の炉石として使用された可能性が考えられる。石質は全て安山岩とみられる。図中で特に明示していないが、被熱した面を正面とした。石1は、正面に磨り痕がみられる。石2は、平面が三角形をしており、上端を打ち欠いている。石3は、正面と上部がよく被熱している。石4は、アミをかけた部分に磨り痕がみられる。石6は、板状を呈し点線で示した範囲がよく被熱している。石8の有茎石鎌は、長さ4.6cm、幅1.8cmを測る。石材は流紋岩である。

第3表 土器・土製品観察表1 ※法量の()は推定値、()は穴底形製土器群状部の長さ。

報告 番号	区	遺構	種類	器種	法量 cm			色面		調整		焼成	胎土	天調 番号
					口径	底径	器高	内面	外面	内面	外面			
1	東	SK01	須恵形	杯	11.8	4.2	1	i	ロクロナデ	ロクロナデ、ハラクゼリ	良	海綿骨針、細砂、礫砂	1	
2	東	SK01	須恵形	有台杯	13.2	9	3.5	e	ロクロナデ	ロクロナデ、ハラクゼリ	良	細砂、粗砂、礫砂、黒色化粒多	2	
3	東	SK01	須恵形	無台杯	(13.6)	(9.2)	3.3	d	ロクロナデ	ロクロナデ、ハラクゼリ	不良	海綿骨針、細砂、礫砂	4	
4	東	SK01	須恵形	有台杯	(14.8)	(10.2)	6.4	e	ロクロナデ	ロクロナデ	劣	海綿骨針、細砂、礫砂、海綿骨針多	3	
5	東	SK01	須恵土器小	平口杯	9.2	9.7	5.8	b	ナデ	ナデ	良	海綿骨針、細砂	5	
6	東	SK01	須恵土器	平底				b	g	ナデ、指頭痕	劣	粗砂、海綿骨針多	266	
7	東	SK01	須恵形	無台杯	9.8	3.6	e	e	ロクロナデ	ロクロナデ、ハラクゼリ	劣	細砂少	12	
8	東	SK01	須恵形	有台杯	14.1	9.8	4.1	d	d	ロクロナデ	ロクロナデ	劣	細砂少	12
9	東	SK01	須恵形	無台杯				e	e	ヨコナデ	ナデ	劣	細砂多、粗砂少	13
10	東	SK01	須恵形	蓋				a	e	ナデ	ナデ	良	海綿骨針、細砂多、粗砂、礫砂	14
11	東	SK01	土師器	土甕	(17.8)			a	e			良	海綿骨針、粗砂	263
12	東	SD06	須恵土器	尖底				b	h	ハケ	ナデ	劣	粗砂、海綿骨針	67
13	東	包含層	須恵形	有台杯	7.8			e	e	ロクロナデ	ロクロナデ、ハラクゼリ	劣	細砂多、粗砂少	7
14	東	包含層	須恵形	蓋	(15.6)			d	e	ロクロナデ	ロクロナデ、ナズリ	不良	粗砂、細砂	264
15	東	包含層	須恵形	蓋	15.8			e	e	ロクロナデ	ロクロナデ、ハラクゼリ	劣	白色の粗砂多	8
16	東	包含層	須恵形	有台杯	(12.2)	(6.7)	4.3	e	e	ロクロナデ	ロクロナデ、ハラクゼリ	良	粗砂、細砂	6
17	東	包含層	須恵形	無台杯	(12)	(8.5)	3	e	e	ロクロナデ	ロクロナデ、ハラクゼリ	良	礫砂、粗砂、細砂	5
18	東	包含層	須恵形	無台杯	7.5			d	d	ロクロナデ	ロクロナデ、ハラクゼリ	劣	細砂	70
19	東	包含層	須恵形	有台杯	(9.5)			i	d	ロクロナデ	ロクロナデ、ハラクゼリ	不良	粗砂、細砂	82
20	東	包含層	須恵形	甕	(27.2)			i	d	ヨコナデ	ヨコナデ	劣	細砂少	69
21	東	包含層	須恵土器	平底	(20.8)			b	a	ナデ	ナデ、指頭痕	良	礫、粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	10
22	西	SK01	須恵土器	平底	(20)			a	a	ナデ	ナデ、指頭痕	良	海綿骨針、焼土塊、粗砂多	15
23	西	SK01	須恵土器	尖底				a	a	ハケ	ナデ、ハケ	良	細砂多、粗砂少	19
24	西	SK01	須恵土器	尖底		(4.9)		c	c	絞リ目	絞リ、指頭痕	良	粗砂少	18
25	西	SK01	須恵土器	尖底				b	a	ハケ		劣	海綿骨針、粗砂、礫砂、焼土塊、海綿骨針	68
26	西	SK01	須恵土器	支脚か	5.1			-	f	-	ナデ、指頭痕	劣	粗砂多、海綿骨針	16
27	西	SK01	須恵土器	支脚	5			-	i	-	ナデ、指頭痕	劣	粗砂多、焼土塊	17
28	西	土師群	須恵形	蓋	15.2	-	2.7	b	g	ロクロナデ	ロクロナデ、ハラクゼリ	不良	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	51
29	西	土師群	須恵形	有台杯	9			e	e	ロクロナデ	ロクロナデ、ハラクゼリ	良	細砂、粗砂、礫砂	50
30	西	土師群	須恵形	甕				d	i	当具痕	ナデ、カキメ	良	細砂多、粗砂、礫砂	65
31	西	土師群	土師器	土甕	15.5	1.7	(14.9)	b	h	ハケ	ハケ、ヨコナデ	劣	海綿骨針、粗砂、細砂多、焼土塊少	49
32	西	土師群	土師器	土甕	(25.6)			j	j	ナズリ		劣	焼土塊多、粗砂多	77
33	西	土師群	土師器	土甕	15.3			a	a	ヨコナデ、ナズリ	ナデ、ヨコナデ、ハケ	良	海綿骨針、細砂、粗砂、礫砂	48
34	西	土師群	包含層	須恵土器	平底	(33)		a	a	ナデ	ナデ、指頭痕	良	礫、粗砂多、細砂、海綿骨針、赤色粒	174
35	西	土師群	須恵土器	平底				a	a	ナデ	ナデ、指頭痕	良	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	173
36	西	土師群	須恵土器	平底か				j	b	ハケ	ナデ、指頭痕	良	海綿骨針、細砂、礫砂多、海綿骨針	252
37	西	土師群	須恵土器	平底	(32.8)			a	b	ハケ	ナデ、指頭痕	劣	細砂、海綿骨針多	58
38	西	土師群	須恵土器	平底か	(28.4)			b	a	ナデ、ハケ	ナデ、指頭痕	劣	細砂少、海綿骨針多	61
39	西	土師群	須恵土器	平底か				a	h	ハケ	ナデ	良	海綿骨針、細砂、粗砂、礫	189
40	西	土師群	須恵土器	平底か				b	b	ナデ	ナデ	良	海綿骨針、細砂、粗砂多、礫少	258
41	西	土師群	須恵土器	平底か				a	a	ハケ	ナデ	良	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	188
42	西	土師群	須恵土器	平底か				a	a	ナデ、指頭痕	ナデ	良	海綿骨針、粗砂多、礫少	254
43	西	土師群	須恵土器	平底か				b	a	ハケ	ナデ、指頭痕	劣	粗砂多、海綿骨針少	56
44	西	土師群	須恵土器	平底か				b	h	ハケ、ハケ	ナデ、指頭痕	良	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	187
45	西	土師群	須恵土器	平底か				f	j	ハケ		劣	粗砂、海綿骨針多	28
46	西	土師群	須恵土器	平底				a	a	粗いハケ目	粗いハケ目	良	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	29
47	西	土師群	須恵土器	尖底か				a	a	ハケ	ナデ、指頭痕	良	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	89
48	西	土師群	須恵土器	平底か				b	a	ハケ	ナデ	劣	細砂多	60
49	西	土師群	須恵土器	平底か				a	h	ハケ	ナデ	良	海綿骨針、細砂多、粗砂少	256
50	西	土師群	須恵土器	平底か				a	a	ナデ	ナデ、ハケ	良	海綿骨針、細砂、粗砂、礫	253
51	西	土師群	須恵土器	尖底か				c	a	ハケ	ナデ	良	海綿骨針、細砂多、粗砂多	259
52	西	土師群	須恵土器	尖底か				a	a	ハケ	ナデ、指頭痕	良	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	79
53	西	土師群	須恵土器	平底か				b	b	ハケ	ナデ、指頭痕	劣	細砂多、粗砂、海綿骨針少	59
54	西	土師群	須恵土器	平底か				b	b	ハケ	ナデ、指頭痕	劣	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	57
55	西	土師群	須恵土器	平底か				a	a	ハケ	ナデ、指頭痕	劣	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	88
56	西	土師群	須恵土器	平底か	(30)			d	d	ハケ	ヨコナデ、ナデ、ハケ	劣	細砂、海綿骨針多	35
57	西	土師群	須恵土器	尖底か、礫少				a	a	ナデ	ナデ	良	海綿骨針、細砂、粗砂少、礫少	257
58	西	土師群	須恵土器	平底か				a	a	ハケ目	ナデ、指頭痕	良	粗砂多、細砂、海綿骨針、赤色粒	172
59	西	土師群	須恵土器	平底				a	a	ハケ	ナデ	良	礫、粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	64
60	西	土師群	須恵土器	平底				a	f	ナデ、指頭痕	ナデ	良	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	180
61	西	土師群	須恵土器	平底か				c	b	ハケ目の為不明	ナデ、指頭痕	良	粗砂多、細砂、海綿骨針、赤色粒	175
62	西	土師群	須恵土器	平底か				a	a	ハケ目	ナデ、指頭痕	良	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	171
63	西	土師群	須恵土器	尖底か				a	a	ハケ	ナデ	良	細砂多、粗砂多、礫	243
64	西	土師群	須恵土器	平底				a	h	ハケ	ナデ	良	海綿骨針、細砂多、粗砂多、礫少	90
65	西	土師群	須恵土器	平底か				k	k	ハケ	ナデ	劣	海綿骨針少、礫少、粗砂多	86
66	西	土師群	須恵土器	平底				a	a	ハケ	ナデ	良	海綿骨針、細砂、粗砂、礫	73
67	西	土師群	黒色土層	須恵土器	平底か			j	j	ナデ	ナデ	良	海綿骨針、焼土塊、粗砂	66
68	西	土師群	須恵土器	平底				d	k	ハケ	ナデ	良	海綿骨針、粗砂多	74
69	西	土師群	須恵土器	尖底				b	b	ナデ、ハケ	ナデ	劣	粗砂、海綿骨針多	84
70	西	土師群	須恵土器	尖底か				a	a	ハケ	ナデ	劣	粗砂多、海綿骨針少	85
71	西	土師群	須恵土器	平底				a	a	ハケ	ナデ	良	海綿骨針、細砂、粗砂、礫	81
72	西	土師群	黒色土層	須恵土器	平底	(25.9)		a	a	ナデ、指頭痕	ナデ、指頭痕	良	礫、粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	34

第4表 土器・土製品観察表2

報告 番号	遺構	種類	器種	法量 cm		色調		調整		焼成	胎土	天調 番号		
				口径	底径	器高	内面	外面	内面				外面	
73	西	土器解	甕壇土器	平底	(35)		a	a	ナデ、指痕	良	海綿骨針、細砂、粗砂多、礫少	36		
74	西	土器解	甕壇土器	平底	(29.7)		a	a	ナデ、指痕	良	塵、粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	268		
75	西	土器解	甕壇土器	平底	(26.4)		a	a	ハケ	ナデ	海綿骨針、細砂多、粗砂多、礫少	186		
76	西	土器解	甕壇土器	平底	(25.5)		g	a	ハケ	ナデ	海綿骨針、細砂、粗砂、礫多	83		
77	西	土器解	甕壇土器	平底	(24.9)		a	a	ハケ、ナデ	ナデ	海綿骨針、細砂、粗砂、礫多	78		
78	西	土器解	甕壇土器	平底	(26.6)		b	a	ナデ	良	海綿骨針、細砂多、粗砂多、礫多	177		
79	西	土器解	甕壇土器	平底	(23.3)		a	a	ハケ、ナデ	ナデ、指痕	海綿骨針、細砂多、粗砂多、礫多	31		
80	西	土器解	甕壇土器	平底	(23.4)		f	b	ナデ、指痕	良	海綿骨針、粗砂多、粗砂多、礫少	62		
81	西	土器解	甕壇土器	平底	(22.8)		a	k	ナデ	ナデ	海綿骨針、細砂、粗砂、礫多	32		
82	西	土器解	甕壇土器	平底	(21.6)		b	a	ナデ	ナデ	海綿骨針、細砂、粗砂、礫多	238		
83	西	土器解	甕壇土器	平底	(17.3)		a	a	ナデ	ナデ、指痕	良	海綿骨針、細砂、粗砂、礫多	176	
84	西	土器解	甕壇土器	平底	(9.7)		a	k	ナデ	ナデ	海綿骨針、細砂多、粗砂、礫多	229		
85	西	土器解	甕壇土器	平底			a	a	ナデ、ハケ	ナデ	海綿骨針、細砂、粗砂、礫多	87		
86	西	土器解	甕壇土器	平底			a	a		良	海綿骨針、細砂、粗砂、礫少	240		
87	西	土器解	甕壇土器	平底			a	a		ナデ	海綿骨針、細砂、粗砂、礫多	241		
88	西	土器解	甕壇土器	平底			f	a	ナデ、ハケ	良	海綿骨針、細砂、粗砂、礫多	193		
89	西	土器解	甕壇土器	平底			a	a	ハケ、指痕	良	海綿骨針、細砂、粗砂、礫多	192		
90	西	土器解	甕壇土器	平底			a	a	ハケ	良	海綿骨針、細砂、粗砂、礫少	237		
91	西	土器解	甕壇土器	平底			d	a		ナデ	良	海綿骨針、細砂、粗砂、礫多	184	
92	西	土器解	甕壇土器	平底			b	d	ナデ、指痕	良	海綿骨針、細砂、粗砂、礫少	185		
93	西	土器解	甕壇土器	平底			a	i	ナデ、ハケ	ナデ、指痕	良	海綿骨針、細砂、粗砂、礫多	190	
94	西	土器解	甕壇土器	平底	(18.7)		a	a	ナデ	ケズリ、ナデ	良	海綿骨針、細砂、粗砂、礫	45	
95	黒色土層 土器解	甕壇土器	平底		(26.2)		a	a	ナデ	ナデ、ハケ、指痕	良	塵、粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	123	
96	西	土器解	甕壇土器	平底	(27.3)		f	a	ナデ	ナデ、ハケ	良	海綿骨針、細砂多、粗砂多、礫少	76	
97	西	土器解	甕壇土器	平底	(21.2)		b	a	ナデ、板目圧痕	ナデ	海綿骨針、細砂、粗砂、礫多	182		
98	西	土器解	甕壇土器	平底			f	a	ナデ、ハケ	ナデ、ハケ、指痕	良	海綿骨針、細砂多、粗砂、礫少	157	
99	西	土器解	甕壇土器	平底			a	a		ナデ	良	海綿骨針、細砂、粗砂、礫多	191	
100	西	土器解	甕壇土器	平底			f	a	ナデ、指痕	良	海綿骨針、細砂、粗砂、礫多	81		
101	西	土器解	甕壇土器	平底			a	a	ナデ	ナデ、指痕	良	海綿骨針、細砂、粗砂、礫多	183	
102	西	土器解	甕壇土器	平底			a	a	ナデ、ハケ	ナデ、指痕	良	海綿骨針、粗砂、粗砂、礫多	158	
103	西	土器解	甕壇土器	平底			a	j	ナデ	ナデ	良	海綿骨針、細砂、粗砂、礫多	236	
104	西	土器解	甕壇土器	平底			a	a	ハケ、ナデ	ナデ、ハケ	良	海綿骨針、細砂、粗砂多、礫少	33	
105	西	土器解	甕壇土器	平底			a	a	ハケ	ナデ、ハケ	良	海綿骨針、細砂、粗砂、礫	156	
106	西	土器解	甕壇土器	平底			b	g		ナデ	良	海綿骨針、細砂、粗砂、礫多	178	
107	黒色土層 土器解	甕壇土器	平底				b	a	ナデ、ハケ	ナデ	良	海綿骨針、細砂、粗砂多、礫少	270	
108	西	土器解	甕壇土器	平底			b	a		ナデ	良	海綿骨針、細砂、粗砂多、礫少	63	
109	西	土器解	甕壇土器	平底			d	d	ハケ、ナデ	ナデ	良	海綿骨針、細砂、粗砂多、礫少	30	
110	西	土器解	甕壇土器	平底			k	k	ハケ	ナデ、指痕	良	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	80	
111	西	黒色土層 土器解	甕壇土器	尖底小			a	a	ヨコナデ	ヨコナデ	良	細砂多、海綿骨針多	131	
112	西	土器解	甕壇土器	尖底			c	a		ナデ、ハケ	劣	粗砂多	92	
113	西	土器解	甕壇土器	尖底			c	j	ナデ、ハケ	ナデ、ハケ	劣	粗砂多、海綿骨針多	99	
114	西	土器解	甕壇土器	尖底			b	b	ナデ、指痕	ハケ目	良	塵、粗砂、細砂、海綿骨針多、赤色粒	53	
115	西	土器解	甕壇土器	尖底			a	a	ナデ、ハケ、指痕	ヨコナデ	劣	粗砂多、海綿骨針多	54	
116	西	土器解	甕壇土器	尖底			j	a	ナデ	ハケ	良	海綿骨針多、粗砂多	55	
117	西	土器解	甕壇土器	尖底			a	a	ナデ、指痕	ハケ目	良	粗砂、細砂、海綿骨針	169	
118	西	土器解	甕壇土器	尖底			a	a	ナデ、指痕	ナデ、指痕	良	塵、粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	72	
119	西	土器解	甕壇土器	尖底	(5.7)		c	a	ナデ、指痕	ナデ、指痕	良	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	43	
120	西	土器解	甕壇土器	尖底	(8.7)		b	b	ナデ、指痕	ナデ、指痕	良	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	52	
121	西	土器解	甕壇土器	尖底	(7.2)		a	c	指痕	ナデ、指痕	良	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	38	
122	西	土器解	甕壇土器	尖底	(6.2)		d	j	ナデ、指痕	ナデ、指痕、ハケ	劣	粗砂多	98	
123	西	土器解	甕壇土器	尖底	(7.2)		j	b	ナデ、指痕	ナデ、指痕	良	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	41	
124	西	土器解	甕壇土器	尖底	(7.0)		c	c	指痕	ナデ、指痕	良	塵、粗砂、細砂、海綿骨針多、赤色粒	40	
125	西	土器解	甕壇土器	尖底			c	b	ナデ、指痕	ナデ、指痕	良	粗砂、細砂	75	
126	西	土器解	甕壇土器	尖底	(3.9)		a	a	指痕	ナデ、指痕	良	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	39	
127	西	土器解	甕壇土器	尖底	(3.5)		b	b	ナデ	ナデ、指痕	良	塵、粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	42	
128	西	土器解	甕壇土器	尖底	(4.6)		a	a	ナデ、指痕	ナデ、指痕	良	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	41	
129	西	土器解	甕壇土器	尖底	(3.6)		b	a	指痕	ナデ、指痕	良	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	44	
130	西	土器解	甕壇土器	支脚	6.2		k	a	ナデ	ハケ、ナデ	良	海綿骨針、粗砂多、礫少	181	
131	西	土器解 包含解	土器器	こしじ	23.2		a	a	ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ、ハケ	良	海綿骨針、焼土塊多、粗砂多	47	
132	西	土器解	甕壇土器	支脚	5.8		a	a	ナデ	ナデ、指痕	良	海綿骨針、礫、粗砂多、細砂	46	
133	西	土器解	甕壇土器	支脚	(7.7)	9	166	-	-	ナデ、ハケ目、指痕	良	塵、粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	20	
134	西	土器解	甕壇土器	支脚	3.3	4.4	11.7	-	-	指痕	良	塵、粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	26	
135	西	土器解	甕壇土器	支脚	(7.4)		a	a	ナデ	ナデ、指痕	良	塵、粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	21	
136	西	土器解	甕壇土器	支脚	(6.6)		a	a	ナデ	ナデ、指痕	良	塵、粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	25	
137	西	土器解	甕壇土器	支脚	(9.6)		a	c	-	ナデ、指痕	良	塵、粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	27	
138	西	土器解	甕壇土器	支脚	6		-	-	-	ナデ、指痕	良	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	23	
139	西	土器解	甕壇土器	支脚	8.6		a	a	ナデ、指痕	ナデ、指痕	良	塵、粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	32	
140	西	土器解	甕壇土器	支脚	8.8		a	j	ナデ、指痕	ナデ、指痕	良	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	24	
141	西	包含解 黒色土層	埴器器	右有柁	14.1	8	62	e	e	ロクロナデ	ロクロナデ、ヘラ切り	良	石灰、長石少	197
142	西	黒色土層 下部	埴器器	右有柁	(9)		d	d	ロクロナデ		劣	礫、粗砂多、細砂多	140	

第5表 土器・土製品観察表3

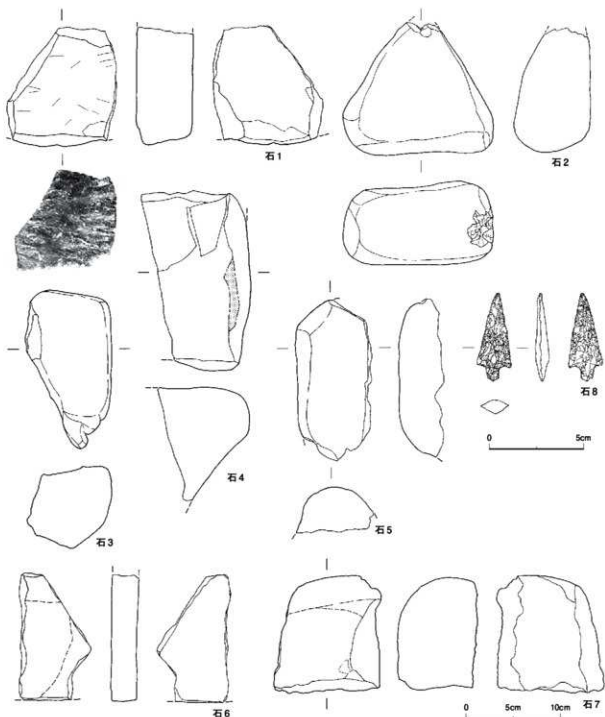
報告番号	区	遺構	種類	器種	法量 cm			色調			調整	焼成	胎土	気調番号
					口径	底径	器高	内面	外面	内面				
143	西	黒色土層	頸座土器	平底か				c	b	ヨコナデ		良	粗砂、細砂、海綿骨針多、焼土塊少	243
144	西	黒色土層	頸座土器	平底か				h	a	ヨコナデ		良	粗砂少、細砂多、海綿骨針多	251
145	西	黒色土層下部	頸座土器	平底				c	c	ハケ	指痕	良	粗砂、細砂、焼土塊多	170
146	西	黒色土層	頸座土器	平底				a	h	ハケ		劣	粗砂、細砂、焼土塊多	136
147	西	黒色土層	頸座土器	平底か				a	j	ハケ	ナデ	劣	粗砂、海綿骨針多	168
148	西	黒色土層	頸座土器	平底				a	l	ヨコナデ		劣	粗砂少、細砂多、海綿骨針少	133
149	西	黒色土層	頸座土器	平底				a	a	ナデ	指痕	良	粗砂少、細砂多、海綿骨針少	142
150	西	黒色土層	頸座土器	平底				h	b	ナデ	ナデ、指痕	良	粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	179
151	西	黒色土層	頸座土器	平底か				a	a	ナデ	ナデ	劣	硬砂、粗砂、細砂、海綿骨針、焼土塊	250
152	西	黒色土層	頸座土器	平底				h	b	ハケ	ナデ、指痕	劣	粗砂、海綿骨針多	267
153	西	黒色土層	頸座土器	平底か				a	j	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	劣	粗砂少、海綿骨針多	167
154	西	黒色土層	頸座土器	平底か				a	a	ナデ	ナデ	良	細砂多、焼土塊、海綿骨針	135
155	西	黒色土層	頸座土器	平底か				h	a	ハケ		良	粗砂、細砂多、海綿骨針少	261
156	西	黒色土層	頸座土器	平底				a	d	ハケ	ナデ	劣	粗砂、細砂、海綿骨針、焼土塊少	151
157	西	黒色土層	頸座土器	平底				a	a	ヨコナデ		良	粗砂、細砂多、焼土塊少、海綿骨針多	253
158	西	黒色土層	頸座土器	平底か				a	a	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	劣	粗砂多、海綿骨針少	107
159	西	黒色土層	頸座土器	平底				a	a	ヨコナデ、ナデ	ナデ	劣	粗砂、海綿骨針多	95
160	西	黒色土層	頸座土器	平底か				b	a	ナデ	ナデ、ハケ	劣	細砂多、海綿骨針少	104
161	西	黒色土層	頸座土器	平底		(37)		j	a	ハケ、ナデ	ナデ	劣	粗砂、粗砂多、海綿骨針少	108
162	西	黒色土層	頸座土器	平底				b	j	ナデ	ナデ	劣	粗砂、海綿骨針多、硬少	106
163	西	黒色土層	頸座土器	平底				a	l	ヨコナデ	ナデ、指痕	良	粗砂少、細砂、海綿骨針多	166
164	西	黒色土層	頸座土器	平底				a	a	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	劣	粗砂、海綿骨針多	94
165	西	黒色土層	頸座土器	平底か				a	j	ナデ	ナデ	劣	粗砂多、海綿骨針少	105
166	西	黒色土層	頸座土器	平底				a	j	ナデ	ナデ	劣	粗砂、海綿骨針多	93
167	西	黒色土層	頸座土器	平底か				b	a	ナデ	ナデ、ケズリ	劣	粗砂多、焼土塊	101
168	西	黒色土層	頸座土器	平底	(25)			g	g	ヨコナデ		良	硬、粗砂、細砂多、海綿骨針少	230
169	西	黒色土層	頸座土器	平底	(26)			b	a	ナデ、指痕	ナデ、指痕	劣	粗砂、粗砂、海綿骨針少	159
170	西	黒色土層	頸座土器	平底	(26)			a	a	ナデ	ナデ	良	海綿骨針、細砂、粗砂、硬少	246
171	西	黒色土層	頸座土器	平底				a	d	ハケ		良	海綿骨針、粗砂少、粗砂、硬少	120
172	西	黒色土層	頸座土器	平底	(28)			g	c	ナデ、指痕	ナデ、指痕	劣	粗砂多、粗砂、海綿骨針少	129
173	西	黒色土層	頸座土器	平底	(25)			a	a	ハケ、ナデ	ナデ、指痕	良	硬、粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	126
174	西	黒色土層	頸座土器	平底	(216)			a	f	ヨコナデ、ハケ	ナデ、指痕	劣	粗砂、海綿骨針多、硬少	121
175	西	黒色土層	頸座土器	平底	24.3			a	b	ナデ	ナデ	劣	海綿骨針、粗砂多	127
176	西	黒色土層	頸座土器	平底	(25)			a	a	ケズリ、ナデ	ナデ、指痕	良	海綿骨針、粗砂、粗砂、硬少	155
177	西	黒色土層	頸座土器	平底	(24)			a	a	ナデ	ナデ	良	海綿骨針、細砂、粗砂、硬少	153
178	西	黒色土層	頸座土器	平底	(227)			g	a	ハケ	ナデ、指痕	劣	粗砂、海綿骨針多	122
179	西	黒色土層	頸座土器	平底	23			h	a	ナデ	ナデ	劣	海綿骨針、雲母、粗砂、細砂	128
180	西	黒色土層	頸座土器	平底	(214)			a	a	ナデ	ナデ、指痕	良	海綿骨針、粗砂、粗砂、硬少	154
181	西	黒色土層	頸座土器	平底	(30)			k	k			劣	硬少、粗砂	130
182	西	黒色土層	頸座土器	平底				a	a	ナデ、ハケ	ナデ	良	海綿骨針、粗砂多、粗砂、硬少	123
183	西	黒色土層	頸座土器	平底				a	a	ナデ	ナデ、指痕	良	硬、粗砂、細砂、海綿骨針、赤色粒	160
184	西	黒色土層	頸座土器	平底				h	a	ハケ	ナデ	良	粗砂少、細砂多、海綿骨針	262
185	西	黒色土層	頸座土器	平底				a	a	ヨコナデ		劣	粗砂多、細砂少、焼土塊、海綿骨針多	247
186	西	黒色土層	頸座土器	平底か				l	l			良	粗砂、細砂多、海綿骨針少	132
187	西	黒色土層	頸座土器	平底か				b	c	ヨコナデ	ヨコナデ	良	粗砂少、細砂、海綿骨針多、焼土塊少	249
188	西	黒色土層	頸座土器	平底か				a	f	ハケ	ナデ、指痕	良	粗砂少、海綿骨針	162
189	西	黒色土層	頸座土器	平底か				h	h	ヨコナデ	ヨコナデ	劣	粗砂、細砂多、海綿骨針多	138
190	西	黒色土層下部	頸座土器	平底か				a	a	ナデ	ナデ	劣	粗砂、細砂多、海綿骨針少	154
191	西	黒色土層	頸座土器	平底か				f	a	ナデ	ナデ	良	粗砂、細砂多、焼土塊少、海綿骨針	134
192	西	黒色土層	頸座土器	平底か				b	c	ナデ	指痕	劣	粗砂多、細砂、焼土塊少、海綿骨針	152
193	西	黒色土層	頸座土器	平底か				c	a	ハケ		劣	粗砂、細砂多、海綿骨針少	161
194	西	黒色土層	頸座土器	平底か				g	g	ハケ	ナデ	良	粗砂多、細砂多、焼土塊、海綿骨針	163
195	西	黒色土層	頸座土器	平底	22.7			g	d	ヨコナデ	ナデ	良	粗砂少、海綿骨針多	137
196	西	黒色土層	頸座土器	平底か	(30.2)			k	a	ナデ、ハケ	ナデ	良	海綿骨針、焼土塊、粗砂、粗砂多	211
197	西	黒色土層	頸座土器	平底	(30.7)			k	a	ハケ	ナデ	劣	海綿骨針、雲母、粗砂、粗砂	212
198	西	黒色土層	頸座土器	平底	(12.9)			a	c	ナデ	ナデ	劣	粗砂、細砂少、焼土塊、海綿骨針	214
199	西	黒色土層	頸座土器	平底				c	l	ナデ、ハケ	ナデ、ハケ	劣	粗砂多	97
200	西	黒色土層	頸座土器	平底				c	j	ナデ、ハケ	ナデ、ハケ	劣	粗砂多	96
201	西	土器類	頸座土器	平底				j	j	ナデ	ナデ、ハケ	劣	粗砂多	100
202	西	黒色土層	頸座土器	平底				d	a	ナデ、ハケ	ナデ、ハケ	劣	粗砂、粗砂、海綿骨針多	91
203	西	黒色土層	頸座土器	平底				c	c	ハケ、ヨコナデ	ハケ	良	粗砂少、細砂多、焼土塊少、海綿骨針	139
204	西	黒色土層	頸座土器	平底				b	b			不良	粗砂、細砂多、海綿骨針	260
205	西	黒色土層	頸座土器	平底				c	h			劣	粗砂、海綿骨針多	103
206	西	黒色土層	頸座土器	平底	(42)			b	c	ヨコナデ	ナデ	劣	粗砂、細砂、海綿骨針	110
207	西	黒色土層	頸座土器	平底	(6)			h	j	ナデ	ナデ、指痕	劣	粗砂、細砂多、海綿骨針少	112
208	西	黒色土層	頸座土器	平底	(22)			b	b	ナデ、指痕	ナデ、指痕	良	粗砂多、粗砂、海綿骨針多、焼土塊少	116
209	西	黒色土層	頸座土器	平底	(48)			h	b	ナデ	ナデ、指痕	劣	粗砂、細砂多、焼土塊、海綿骨針少	116
210	西	黒色土層	頸座土器	平底	(61)			d	c	ナデ、指痕	ナデ、指痕	劣	粗砂、細砂多、海綿骨針	114
211	西	黒色土層	頸座土器	平底	(42)			c	c	ナデ	ナデ	劣	粗砂多、粗砂、焼土塊、海綿骨針	161
212	西	黒色土層	頸座土器	平底	(37)			c	j	ナデ	ナデ	良	粗砂多、細砂多、焼土塊、海綿骨針	119
213	西	黒色土層	頸座土器	平底				a	a	ナデ	ナデ、指痕	良	粗砂、細砂多、焼土塊	221

表6表 土器・土製品観察表4

報告 番号	区	遺構	種類	器種	法量 cm		色調		調整		焼成	胎土	天調 番号
					口径	底径	器高	内面	外面	内面			
214	西	黒色土層	頸座土器	尖底	(4.1)		e	c	ナデ	ナデ、指面肌	赤	粗砂多、焼土多、海綿骨針微	232
215	西	黒色土層	頸座土器	尖底	(3.6)		b	g	ナデ	ナデ、指面肌	赤	粗砂、細砂多、焼土多、海綿骨針微	117
216	西	黒色土層	頸座土器	尖底	(3.9)		e	a	ナデ	ナデ、指面肌	赤	粗砂多、細砂多、海綿骨針多	234
217	西	黒色土層	頸座土器	尖底	(4.7)		e	b	ナデ	ナデ	赤	粗砂多、細砂多、海綿骨針少	115
218	西	黒色土層	頸座土器	尖底	(5.6)		1	b	ナデ	ナデ、指面肌	赤	粗砂多、細砂多、焼土多、海綿骨針多	235
219	西	黒色土層	頸座土器	尖底			e	b	ナデ	ナデ、指面肌	赤	粗砂、細砂多、焼土多、海綿骨針多	233
220	西	黒色土層	頸座土器	尖底	(3.9)		e	d	ナデ	ナデ	赤	粗砂、細砂多、海綿骨針少	113
221	西	黒色土層	頸座土器	尖底	(4.4)		b	c	ナデ	ナデ、指面肌	赤	粗砂、細砂多、焼土多、海綿骨針微	118
222	西	黒色土層	頸座土器	尖底	(4.6)		e	e	ナデ	ナデ	赤	粗砂多、焼土多、海綿骨針多	109
223	西	黒色土層	頸座土器小				1	1	ナデ	ハケ	赤	粗砂、細砂多、海綿骨針、焼土	248
224	西	黒色土層	頸座土器小	平底	(7.4)		b	a	ナデ、指面肌	ナデ	赤	糠、粗砂多、細砂、海綿骨針多、赤色粒	124
225	西	黒色土層 下部	土鉢	7.6 3.6			-	d	-	指押さえ	赤	糠少、粗砂、細砂	141
226	西	黒色土層	土鉢	8.7 (4.4)			-	c	-	指押さえ	赤	粗砂多、海綿骨針少	102
227	西	黒色土層 下部	頸座土器	尖底			a	a	ヨコナデ		赤	粗砂微、細砂少、海綿骨針少	166
228	西	黒色土層 下部	頸座土器	尖底小			b	g	ハケ	ナデ	赤	糠微、粗砂、細砂多、海綿骨針多、焼土	143
229	西	包含層	頸座土器	尖底	(4.6)		b	d	紋目目	ナデ	赤	海綿骨針、粗砂多	144
230	西	井内溝	頸座土器	平底	(21.4)		b	a	ハケ	ナデ	赤	海綿骨針、粗砂多	148
231	西	井内溝	頸座土器	尖底小			b	a	ハケ	ナデ	赤	海綿骨針、粗砂多	149
232	西	井内溝	頸座土器	尖底			b	b	ナデ	ナデ	赤	海綿骨針、焼土層、粗砂、細砂	147
233	西	井内溝	頸座土器	支脚	7.3		-	g	-	ハケ	赤	海綿骨針、粗砂多	146
234	西	包含層	須恵形	蓋	12.9	3.2	e	e	ロタロナデ	ロタロナデ、へう切り	赤	石灰、長石多	198
235	西	包含層	須恵形	無台杯	10		e	e	ロタロナデ	ロタロナデ、へう切り	赤	石灰、長石少	199
236	西	包含層	頸座土器	尖底小			f	b	ハケ	ナデ	赤	海綿骨針、粗砂、細砂多	222
237	西	包含層	頸座土器	平底小			a	j	ナデ、指面肌	ナデ	赤	海綿骨針、焼土層、粗砂少	228
238	西	包含層	頸座土器	平底小			k	k	ハケ	ナデ	赤	海綿骨針、粗砂、細砂多	217
239	西	包含層	頸座土器	平底小			a	a	ハケ	ナデ	赤	海綿骨針、雲母、粗砂、細砂	213
240	西	包含層	頸座土器	平底小			b	a	ハケ	ナデ	赤	海綿骨針、焼土層、粗砂	216
241	西	包含層	頸座土器	平底			a	b	ハケ	ナデ	赤	海綿骨針、雲母、粗砂	242
242	西	包含層	頸座土器	平底			a	g	ナデ	ナデ	赤	海綿骨針、雲母、粗砂、細砂	145
243	西	包含層	頸座土器	平底			a	a	ナデ	ナデ	赤	海綿骨針、雲母、粗砂	218
244	西	包含層	頸座土器	平底			a	k	ハケ	ナデ	赤	海綿骨針、焼土層、粗砂	225
245	西	包含層	頸座土器	平底			a	f	ナデ	ナデ	赤	海綿骨針、粗砂多	224
246	西	包含層	頸座土器	平底			a	a	ナデ、ハケ	ナデ	赤	海綿骨針、焼土層、粗砂	203
247	西	包含層	頸座土器	平底	(30)		b	a	ナデ	ナデ	赤	海綿骨針、雲母、粗砂多	229
248	西	包含層	頸座土器	平底	27.5		a	a	ハケ、ナデ	ナデ、指面肌	赤	海綿骨針、糠微、粗砂少	210
249	西	包含層	頸座土器	平底	(22)		a	a	ナデ	ハケ、ナデ	赤	海綿骨針、粗砂多	209
250	西	包含層	頸座土器	平底	(23)		c	b	ナデ	ナデ、指面肌	赤	海綿骨針、焼土層、粗砂、細砂	228
251	西	包含層	頸座土器	平底	(9.2)		j	b	ナデ、ハケ	ナデ	赤	海綿骨針、焼土層、粗砂	207
252	西	包含層	頸座土器	平底	(11)		a	a	ナデ	ナデ	赤	海綿骨針少、粗砂、細砂多	203
253	西	包含層	頸座土器	平底	(18)		b	a	ナデ	ナデ、指面肌	赤	海綿骨針、焼土層、粗砂多	206
254	西	包含層	頸座土器	平底	(26.2)		a	k	ナデ	ナデ	赤	海綿骨針、粗砂	204
255	西	包含層	頸座土器	平底	(24.3)		b	a	ナデ	ハケ、指面肌	赤	海綿骨針、焼土層、粗砂多	208
256	西	包含層	頸座土器	平底	(22)		a	b	ヨコナデ	ナデ	赤	海綿骨針、砂微	244
257	西	包含層	頸座土器	平底	(22)		a	f	ナデ、ハケ	ナデ、指面肌	赤	海綿骨針、焼土層、雲母、石英、長石	201
258	西	包含層	頸座土器	平底	21		a	a	ハケ	ナデ、指面肌	赤	海綿骨針、粗砂少、砂粒	200
259	西	包含層	頸座土器	平底	19		a	a	ナデ	ナデ、指面肌	赤	海綿骨針、雲母、焼土層、粗砂多	202
260	西	包含層	頸座土器	尖底	(5.8)		i	i	ナデ	ナデ、指面肌	赤	海綿骨針、粗砂多	220
261	西	包含層	頸座土器	尖底	(5.8)		i	j	ナデ	ナデ、指面肌	赤	焼土層、粗砂多	222
262	西	包含層	頸座土器	尖底	(4.5)		j	j	紋目目	ナデ	赤	焼土層少、粗砂多	221
263	西	包含層	頸座土器	尖底	(4.6)		j	j	ナデ	ナデ、指面肌	赤	焼土層微、粗砂多	223
264	西	包含層	頸座土器	支脚			a	a	ナデ	ナデ、指押さえ	赤	糠少、雲母、粗砂多	213
265	西	包含層	頸座土器	支脚	9.9		a	a	-	-	赤	海綿骨針微、粗砂、細砂	209
266	西	包含層	頸座土器	支脚			-	b	-	ナデ、指押さえ	赤	海綿骨針、焼土層、粗砂	219
267	西	包含層	土師器	羹	(26)		b	b	ハケ	ハケ、ヨコナデ	赤	海綿骨針、雲母、粗砂、細砂	263
268	西	包含層	弥生土器	羹	16.1		i	i	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケ	赤	海綿骨針、糠少、粗砂	194
269	西	包含層	土師器	土鉢	3.4		-	b	-	-	赤	雲母、粗砂、細砂	193
270	西	包含層	土師器	土鉢	8.1 4.7		-	a	-	ナデ、指押さえ	赤	海綿骨針、焼土層、粗砂多	196

色調分類

a	橙
b	にぶい橙
c	にぶい黄橙
d	灰黄一灰白
e	灰
f	赤橙
g	にぶい赤橙
h	赤橙～赤褐色
i	黄灰～浅黄灰
j	浅黄～浅黄橙
k	黄橙
l	明黄～明黄灰



第18圖 石製品 (S = 1/2, 1/4)

第7表 石製品観察表

報告番号	区	遺構	種類	石材	法量 cm			重量 (g)	備考	実測番号
					長さ	幅	厚さ			
石1	西	SK01	炉石	安山岩	125	11.6	6.1	1350	被熱	石-1
石2	西	土器層	炉石	安山岩	(139)	15.9	8.8	2400	被熱	石-4
石3	西	土器層	炉石	安山岩	16.5	9.1	8.6	1400	被熱	石-6
石4	西	土器層	炉石	安山岩	18.85	11.6	11.8	2.3	被熱	石-5
石5	西	土器層	炉石	安山岩	16.8	8.1	4.8	832.8	被熱	石-7
石6	西	土器層	炉石	安山岩	13.4	7.7	2.85	477.3	被熱	石-8
石7	西	土器層	炉石	安山岩	12.3	11.4	9	1500	被熱	石-3
石8	東	包含層	石鏃	流紋岩	4.6	1.8	7.3	32		石-2

第4章 ま と め

検出した遺構は、土坑、溝、土器層などである。遺物は、須恵器、土師器、製塩土器、炉石などが出土している。東区の溝（SD01）は近代のものともみられ、西区の土坑（SK01）と土器層（製塩土器廃棄層）は、奈良時代から平安時代前期（8世紀頃）の遺構とみられる。その他には、包含層から弥生時代後期の甕が出土し、有茎石鉢も同時期とみられる。

能登地域では、200ヶ所以上の土器製塩遺跡があるとされている。これまでの研究成果によれば、奈良・平安時代における土器製塩の煎熬容器は、主に平底形製塩土器（以下平底形）と尖底形製塩土器（以下尖底形）に大別される。平底形は、能登半島外浦の羽咋郡市付近に多く分布し、尖底形は主に能登半島内浦に広く分布している。

本遺跡は、能登半島の外浦に位置しており、平底形の分布域に入る。この分布域にある羽咋市寺家遺跡、滝・柴垣遺跡群、滝・柴垣G遺跡、赤住遺跡群などの報告書をもみても、図示された製塩土器の大多数は、平底形である。今回の調査地から出土した製塩土器の大半も平底形である。しかし、かなりの数の尖底形が出土していることは注目される。西区の土器層及び黒色土層から出土した底部のみの個体数を数えると、平底形56個に対して尖底形29個であり、尖底形が占める割合が同分布域にある遺跡に比べて多いことが指摘できる。

昭和54年度調査に続いて、今回の調査区でも多量の製塩土器が出土した。これは、当時の福野湯が入江であったとの推定を補足するものとみることができよう。

参考文献

- いしかわ考古学研究会 1955 『石川県羽咋郡旧福野湯周辺総合調査報告書』石川県考古学研究会
宇野隆夫ほか 1991 『能登滝・柴垣製塩遺跡群』富山大学人文学部考古学研究室 石川県考古学研究会
垣内光次郎・川畑誠 2001 『七尾市 赤浦やまと遺跡』財団法人 石川県埋蔵文化財センター
小嶋芳孝 1988 『X X III 製塩土器の検討』『寺家遺跡発掘調査報告Ⅱ』石川県立埋蔵文化財センター
志賀町史編纂委員会 1974 『志賀町史』資料編第1巻
戸潤幹夫 1988 『榑状御付深鉢形製塩土器の下限とその役割』『石川県立歴史博物館 紀要』第1号 石川県立歴史博物館
戸潤幹夫 2002 『第5章 製塩遺跡』『新修七尾市史』1考古編
富田和気夫 1991 『滝・柴垣海岸G遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
橋本澄夫・戸潤幹夫 1994 『6 石川県』『日本土器製塩研究』青木書店
久田正弘¹²⁾ 2004 『志賀町穴口遺跡・穴口貝塚』財団法人 石川県埋蔵文化財センター
三浦純夫¹³⁾ 1990 『赤住遺跡群』石川県志賀町教育委員会・赤住地区埋蔵文化財調査団
谷内明央・伊藤さやか 2004 『志賀町館郷堂遺跡』財団法人 石川県埋蔵文化財センター
米沢義光¹⁴⁾ 1980 『志賀町米浜遺跡-県営ほ場整備事業関連埋蔵文化財-調査報告書1』石川県立埋蔵文化財センター

報告書抄録

ふりがな	しかまち よねはまいせき							
書名	志賀町 米浜遺跡							
副書名	県営ふるさと農道整備事業（米浜地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	立原 秀明							
編集機関	財団法人石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL076-229-4477							
発行機関	石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	平成20年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号					
よねはまい 米浜遺跡	石川県 しかまち 志賀町 よねはまい 米浜	173843	29037	37度 0分 5秒	136度 47分 27秒	20051031 ～ 20060119	900㎡	県営ふるさと農道整備事業 (米浜地区)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
米浜遺跡	集落跡	奈良時代 平安時代	土坑、溝、 土器廃棄層	須恵器、土師器 製塩土器、炉石				
要約	旧福野潟低地に面した丘陵裾の微高地上に立地する遺跡である。8世紀代の尖底形・平底形の製塩土器がまとまって出土した。古代の福野潟は、海水が流入する入江であった可能性が高い。PDFあり							



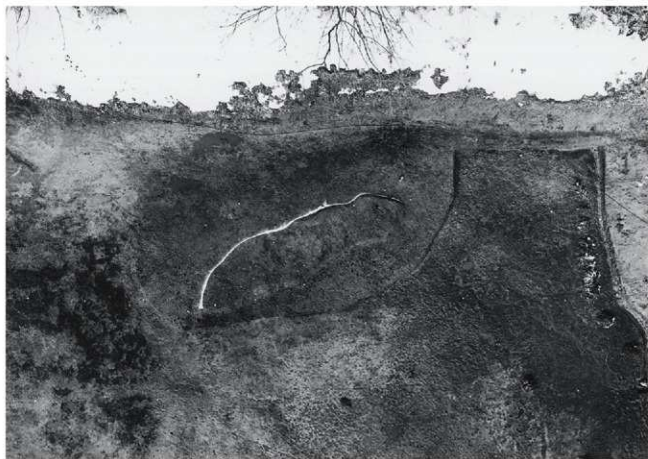
調査区遠景 (東から)



東区 完掘状況



西区 完掘状况



西区 土层完掘状况



東区 遺構検出作業（東から）



東区 溝群完掘状況（北から）



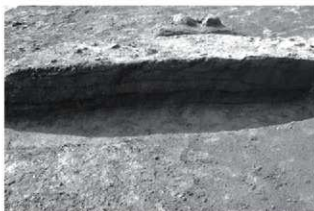
東区 完掘状況（東から）



西区 土器層検出状況（東から）



西区 土器層掘削作業（北から）



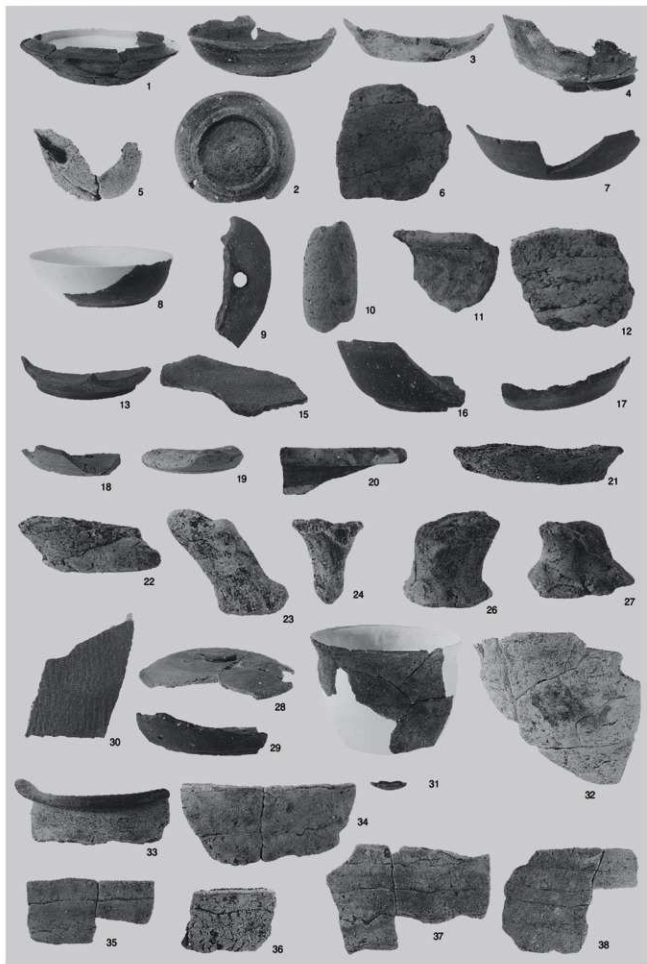
西区 土器層土層断面（東から）

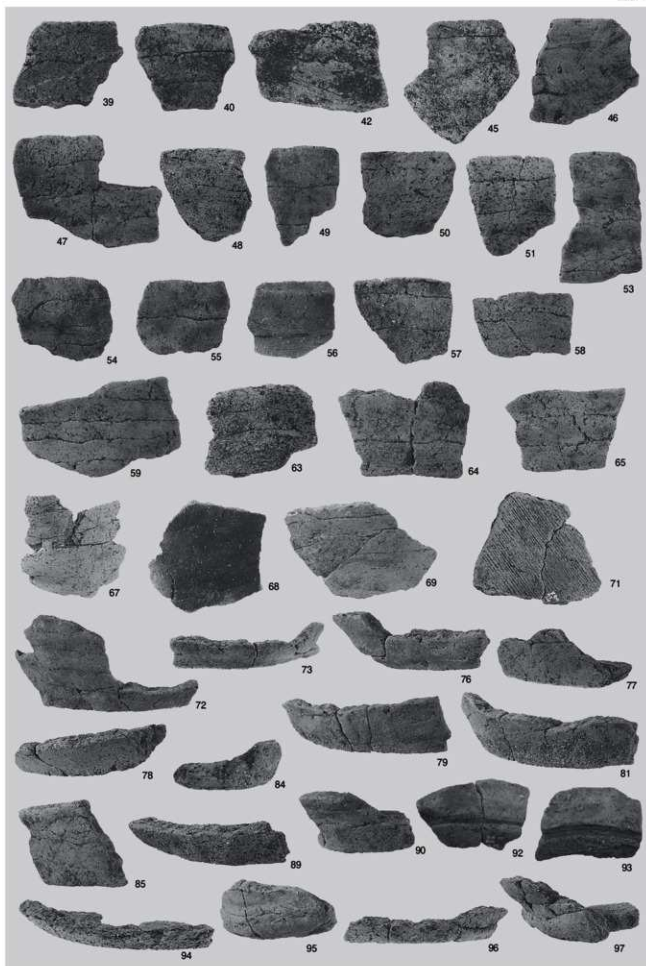


西区 SKO1完掘状況（北から）

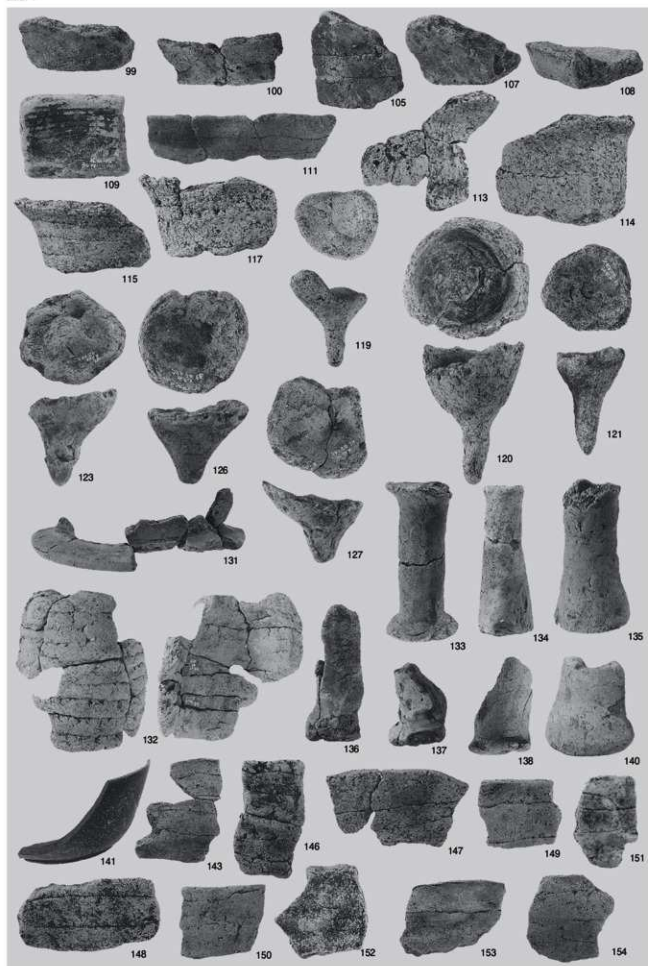


西区 完掘状況（西から）

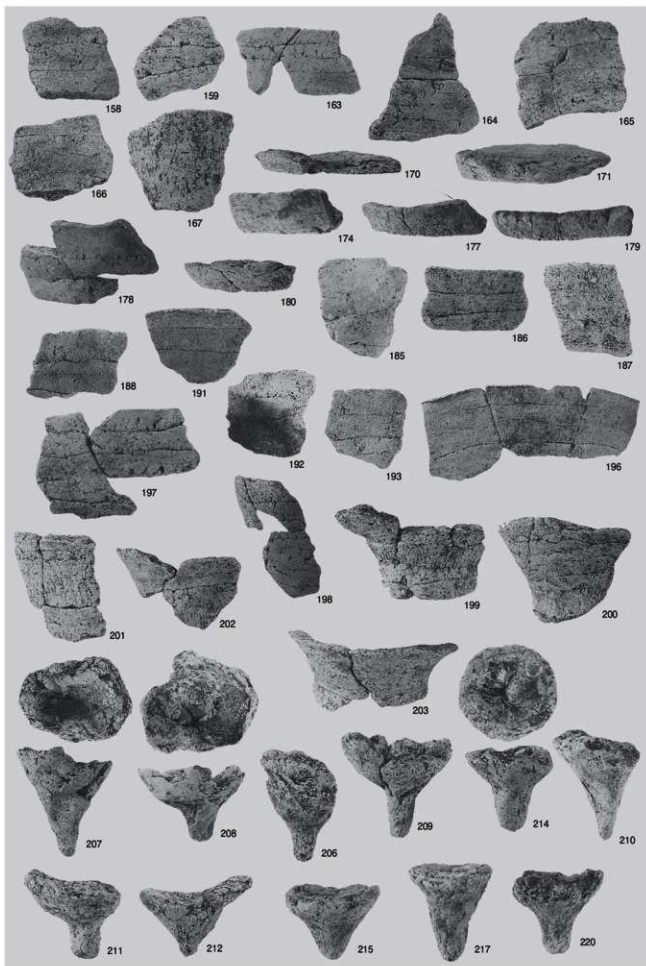




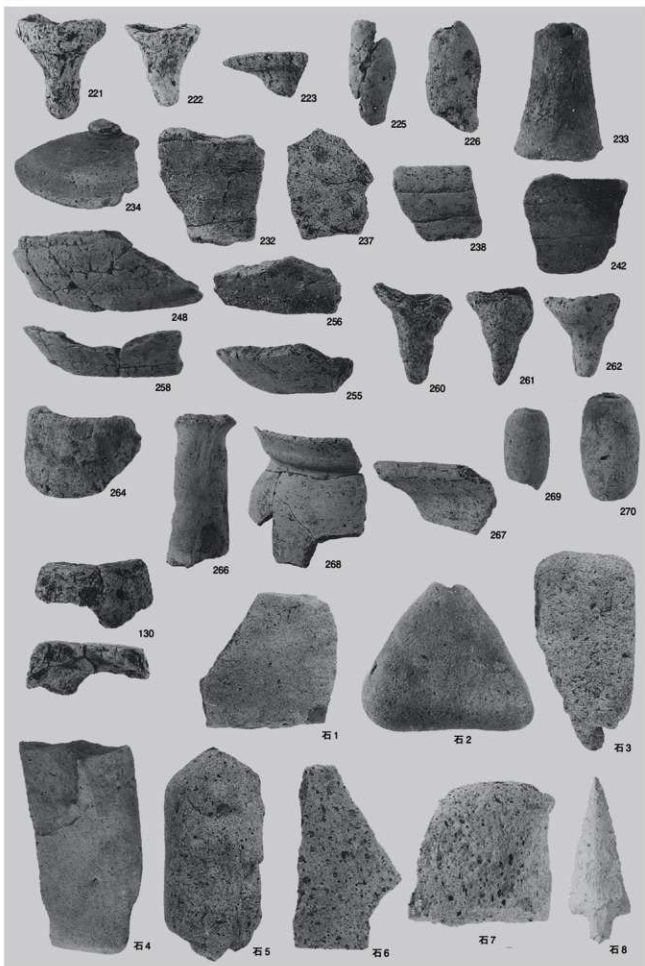
出土遺物 2



出土遺物 3



出土遺物 4



出土遺物 5

志賀町 米浜遺跡

発行日 平成20(2008)年3月31日

発行者 石川県教育委員会

〒930-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
電話 076-225-1842(文化財課)

財団法人石川県埋蔵文化財センター

〒930-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
電話 076-229-4477

E-mail address mail@ishikawa-maibun.or.jp

印刷 鶴川印刷株式会社